

参 考 資 料

< 調 査 票 等 一 式 >

調査票等目次

1. 調査依頼状（全業種共通）	187
2. 産業廃棄物等に関する調査票	
・形式1	188
・形式2（建設業）	190
・形式3（運送業、自動車小売業、燃料小売業、自動車整備業）	192
・形式4（医療業）	194
3. 調査票の記入要領・記入例、産業廃棄物分類表	
・形式1-1	196
・形式1-2（水道業）	198
・形式1-3（鉱業）	200
・形式2（建設業）	202
・形式3（運送業、自動車小売業、燃料小売業、自動車整備業）	204
・形式4（医療業）	206
4. 産業廃棄物等の処理等に関する意識調査票	
・排出事業者用	208
・産業廃棄物処理業者用	210

調査対象事業者 様

秋田県生活環境部長

(公 印 省 略)

令和7年度秋田県産業廃棄物実態調査について（お願い）

当県の廃棄物行政の推進について、日頃から格別の御協力をいただき厚く御礼申し上げます。

さて、県では、第4次秋田県循環型社会形成推進基本計画（令和3年度～令和7年度）に基づき循環型社会の実現に向けた施策を実施しているところですが、本年度は計画期間の最終年度に当たることから、次期計画の策定に向け**必要な基礎資料を得るため、産業廃棄物の実態に関する大規模調査を実施**することとしました。

つきましては、調査対象事業所の一つとして貴事業所が抽出されましたので、ご多忙のところ誠に恐縮ではございますが、別添調査票に必要事項をご記入の上、同封した返信用封筒により令和7年6月27日（金）までにご提出くださるよう、お願い申し上げます。

なお、本調査は、一般財団法人日本環境衛生センターに委託して実施していますので、記入方法等ご不明な点がございましたら、**下記お問い合わせ先までお問い合わせ**ください。

【提出期限】 令和7年6月27日（金）

【提出方法】 (①②いずれかの方法でご提出ください)

① 同封の返信用封筒にてご返送

② 電子データを電子メールに添付してご送信

提出先メールアドレス：hik-r@jesc.or.jp

※調査票等の電子データは、下記ホームページからダウンロードすることができます。

<https://www.jesc.or.jp/work/tabid/222/Default.aspx>

【調査主体】（調査業務委託者）

秋田県生活環境部環境整備課（廃棄物対策チーム）

〒010-8570 秋田市山王4丁目1-1

【お問い合わせ先・提出先】（調査業務受託者）

一般財団法人日本環境衛生センター

〒210-0828 神奈川県川崎市川崎区四谷上町11-15

TEL：044-287-3280（受付時間：平日9：00～17：00）

秋田県

調査票番号	

右記の＜記入注意事項＞をご確認の上、調査票に記入して下さい

＜記入注意事項＞

1. 全般的事項
- 本調査は、事業活動によって発生する産業廃棄物・特別管理産業廃棄物、有償あるいは無償で引渡している副産物が対象となります。
- 本調査の対象期間は令和6年度（令和6年4月1日～令和7年3月31日）です。
- 本調査は事業所単位で行いますので、調査票が送付された事業所に関して以下の質問にお答え下さい。そのため、貴事業所以外に貴社の本社、工場等があってもそれは調査の対象となりません。
- 調査票（その2）に貴事業所から発生する産業廃棄物等の状況について、記入して下さい。
- 産業廃棄物等が調査の対象期間中に何も発生しなかった場合は、本調査票（その1）の「事業所の概要」欄をご回答の上、ご返送下さい。
- 調査票の電子データは、日本環境衛生センターのホームページからダウンロードできます。
2. 調査票（その1）
- 従業員数は令和7年3月31日現在としています。この時期での集計が難しい場合は、なるべく近い時期の従業員数を記入して下さい。
- 製造品出荷額等とは、「製造品出荷額」、「加工賃収入額」、「修理料収入額」、「製造工程から出たくず及び廃物」の出荷額と「その他の収入額」の合計で、消費税等の内国消費税を含んだ額です。ただし、調査票が送付された事業所の形態が本社事務のみ、事務所、営業所、配送センター及び販売所等であって、実際に製造、加工及び修理等を行っていない場合は「0（ゼロ）」を記入して下さい。
- 製造品出荷額等は、令和6年度（令和6年4月1日～令和7年3月31日）としていますが、この時期での集計が難しい場合は、なるべく近い時期の一年間の金額を記入して下さい。
3. 調査票（その2・裏面）
- 自ら再生利用したもの、他者に売却したもの、無償で引き渡しているものも対象となります。
- 一般廃棄物は記入不要です（例：使用済みのOA用紙、新聞紙、雑誌、飲料の空缶・空きびん・ペットボトル、厨芥など）。
- 別紙「調査票の記入要領・記入例」を参考に、産業廃棄物等の発生及び処理状況について記入して下さい。
- 同じ産業廃棄物等でも、中間処理方法や処分先が違えば、行を分けて記入して下さい。
- 発生量には、脱水や焼却など中間処理を行う前の量を記入して下さい。
4. 電子データ（回答調査票）の返送先
- 電子データで回答された調査票は、下記のメールアドレスで提出することができます。

E-mail : hik-r@jesc.or.jp

裏面へ

事業所名		所在地		代表者(事業所長)氏名		記入年月日		令和		年		月		日		電話番号		記入者 (部課、氏名)		事業内容		(業種)		(主要製品又は商品)	
																-									

令和6年度の1年間に産業廃棄物等は発生しましたが、該当する番号に○を付けて下さい。
※再生利用された物、有償等で引き渡している副産物も対象として下さい。

1. 発生した。	2. 発生しなかった。
次へ	次へ

上記の「事業所の概要」を記入し、ご返送下さい。

廃棄物等の量的変化	<p>令和6年度に貴事業所から発生した産業廃棄物等は令和5年度と比較して、どの様に変化しましたか。該当する番号に○を付けて下さい。</p> <p>1. 大きく増加した。 2. やや増加した。 3. 変化していない。 4. やや減少した。 5. 大きく減少した。 6. その他、不明。</p> <p>上記で1又は5と回答された方は、その理由をご記入下さい</p>
処理施設の状況	<p>貴事業所から発生した産業廃棄物等を事業所内で焼却していますか。該当する番号に○を付けて下さい。</p> <p>1. 焼却している(熱利用していない) 2. 焼却している(熱利用している) 3. 焼却していない</p> <p>貴事業所から発生した産業廃棄物等（汚泥）を事業所内で脱水していますか。該当する番号に○を付けて下さい。</p> <p>1. 脱水している 2. 脱水していない</p>

裏面の調査票（その2）に貴事業所から発生する産業廃棄物等の状況について記入して下さい。

産業廃棄物等に関する調査票(令和6年度実績)【その1】

調査票番号

秋田県
建設業

右記の<記入注意事項>をご確認の上、調査票に記入して下さい

事業所名					
所在地					
代表者(事業所長)氏名	記入者 <small>ふりがな</small> (部課、氏名)				
記入年月日	令和	年	月	日	電話番号
					- -



県内元請工事の有無

貴社が元請施工者として請負い令和6年度に完成した県内工事にはありますか(出来高工事を含む)。該当する番号に○を付けて下さい。

1. 元請工事あり	2. 元請工事なし
-----------	-----------



上記の「事業所の概要」を記入し、ご返送下さい。

元請完成工事高 (令和6年度、消費税を含む)									
貴社が元請施工者として請負い令和6年度に完成した県内工事の年間元請完成工事高(出来高工事を含む)を記入して下さい。									
千	百	十	千	百	十	万	千	百	十
億	億	億	億	億	億	万	万	万	万
						万円/年			

※共同企業体(JV)による工事については、分担施行方式では各社持ち分の元請工事高と発生廃棄物等を記入し、共同施行方式では貴社が代表者会社の場合のみ、元請完成工事高と発生廃棄物等を一括記入して下さい。



令和6年度の1年間に産業廃棄物等は発生しましたか。該当する番号に○を付けて下さい。 ※再生利用された物、有償等で引き渡している副産物も対象として下さい。
1. 発生した。
2. 発生しなかった。



上記の「事業所の概要」「工事実績」を記入し、ご返送下さい。

裏面の調査票(その2)に貴社から発生する産業廃棄物等の状況について記入して下さい。

裏面へ

<記入注意事項>

1. 全般的事項

○本調査は、事業活動によって発生する産業廃棄物・特別管理産業廃棄物、有償あるいは無償で引渡している副産物が対象となります。

○本調査の対象期間は令和6年度(令和6年4月1日～令和7年3月31日)です。

○調査票(その2)には、貴社が秋田県で施工した全ての元請工事(出来高工事含む)から発生する産業廃棄物、副産物について記入して下さい。共同企業体(JV)による工事については、分担施行方式では各社持ち分の元請工事高と発生廃棄物を記入し、共同施行方式では貴社が代表者会社の場合のみ、元請完成工事高と発生廃棄物を一括記入して下さい。

○調査票の電子データは、日本環境衛生センターのホームページからダウンロードできます。

2. 調査票(その1)

○元請完成工事高は、令和6年度(令和6年4月1日～令和7年3月31日)としていますが、この時期での集計が難しい場合は、なるべく近い時期の一年間の金額を記入して下さい。

3. 調査票(その2・裏面)

○自ら再生利用したもの、他者に売却したもの、無償で引き渡しているものも対象となります。

○一般廃棄物は記入不要です(例：使用済みのOA用紙、新聞紙、雑誌、飲料の空缶・空きびん・ペットボトル、厨芥など)。

○別紙「調査票の記入要領・記入例」を参考に、産業廃棄物等の発生及び処理状況について記入して下さい。

○同じ産業廃棄物等でも、中間処理方法や処分先が違えば、行を分けて記入して下さい。

○発生量には、脱水や焼却など中間処理を行う前の量を記入して下さい。

4. 電子データ(回答調査票)の返送先

○電子データで回答された調査票は、下記のメールアドレスで提出することができます。

E-mail : hik-r@jesco.or.jp

産業廃棄物等に関する調査票（令和6年度実績）【その2】

- ④自社での中間処理方法
自社で中間処理された廃物は、該当する処理方法の記号を下欄の「中間処理方法コード表」から選んで、中間処理の過程順に記入して下さい。
- ⑤中間処理後の量
中間処理後の物の重量を記入して下さい。なお、単位は該当するものを選び、○で囲んで下さい。

- ⑤委託中間処理の方法
⑥「委託・処分」の方法」で「U」に回答された場合（中間処理を委託）は、委託先で中間処理された内容に該当する処理方法の番号を下欄の「委託中間処理方法コード表」から選んで、中間処理の過程順に記入して下さい。
- ⑩委託中間処理後の再生利用・処分方法
委託先で中間処理された後の廃棄物の処理方法に該当する番号を下記から選んで、その記号を○で囲んで下さい。
1. 再生利用・リサイクルしている。
 2. 埋立処分している。

- ⑩委託中間処理後の再生利用・処分方法
委託先で中間処理された後の廃棄物の処理方法に該当する番号を下記から選んで、その記号を○で囲んで下さい。
1. 再生利用・リサイクルしている。
 2. 埋立処分している。

[illegible][illegible][illegible]

④中間処理方法コードトマ表	
A : 焼却	J : 溶融
B : 脱水	K : 切断
C : 天日乾燥	L : 焼成
D : 機械乾燥	M : 堆肥化(焼酎)
E : 堆肥分離	N : 炭回収
F : 中和	O : カリウム型化
G : 酸分解	P : カリウム型化
H : 炭化	Q : 乾熱炭素
I : 圧縮	R : 蒸沸
	S : 溶融
	T : 金属塊回収
	U : 非鉄金属回収
	V : 濃縮
	W : 消化
	X : 粗粒調整・混合
	Y : 分別・選別
	Z : その他

⑥処理・処分方法コード表	
＜自己処理＞	
V1：自社で再利用した。	
V2：売却できないものを自社で再利用した。	
W1：売却（利益があった）した。	
W1：自社で保管している。	
Q1：自社の処分場で埋立処分した。	
＜産業廃棄物処理業者等へ委託処理＞	
U1：処理業者にて中間処理（資源化・リサイクルを含む）を委託した。	
X1：廃品回収（資源）業者、あるいは納入業者、関連企業等で再生処理をした。	
S1：民間の処理業者の処分場で直接埋立処理した。	
S2：秋田県環境保全センターで直接埋立処理した。	
T1：処理業者で直接処分投入した。	

⑨委託中間処理方法コード表

A: 焼却	J: 溶解	R: ホトリード
B: 脱水	K: 切断	S: 棄物消焼
C: 天日乾燥	L: 焼成	T: 金属(鉄)回収
D: 樹液乾燥	M: 堆肥化(醗酵)	U: 非鉄金属回収
E: 油水分離	N: 酸回収	V: 濃縮
F: 中和	O: 炭化	W: 油化
G: 破砕	P: 炭化炉型化	X: 分別調整・混合
H: 分級	Q: 乾熱処理	Y: 分別・選別
I: 圧縮	無沸	Z: その他

↑

【 廃体的に 】

①資源化用途コード表

10：鉄鋼原料	70：ガラス原料
20：非鉄金属等原料	80：プラスチック原料
30：燃料	81：再生タイヤ
31：木炭	90：セメント原料
41：飼料	91：再生油・再生溶剤
42：肥料・堆肥	92：中粒剤
43：土壌改良材	93：高炉還元剤・
50：土木・建設資材	コークス炉化学原料
51：再生木材・合板	98：その他
60：パルプ・紙原料	

10～93に該当するものがない場合
①の枠内に具体的な用途を直接記
入してください。

産業廃棄物等に関する調査票(令和6年度実績)【その1】

秋田県

調査票番号

運送業、自動車小売業、燃料小売業、自動車整備業

右記の「記入注意事項」をご確認の上、調査票に記入して下さい

事業所名		事業内容		(業種等)
所在地				
代表者(事業所長)氏名	記入者 (部署、氏名)			
記入年月日	令和 年 月 日	電話番号	-	-
事業所の概要				
従業員数				
事業所の令和7年3月31日現在の従業員数(パート等の臨時職員及び役員等を含む)を記入して下さい。				
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> <div style="width: 20px; height: 20px; border: 1px solid black;"></div> <div style="width: 20px; height: 20px; border: 1px solid black;"></div> <div style="width: 20px; height: 20px; border: 1px solid black;"></div> <div style="width: 20px; height: 20px; border: 1px solid black;"></div> <div style="width: 20px; height: 20px; border: 1px solid black;"></div> </div> <div>人</div> </div>				



令和6年度の1年間に、貴事業所内で車の整備(タイヤ・オイル交換など)や洗車による産業廃棄物等は発生しましたか。該当する番号に○を付けて下さい。
※再生利用された物、有償等で引き渡している副産物も対象として下さい。

1. 発生した。

次へ

2. 発生しなかった。

次へ

上記の「事業所の概要」を記入し、ご返送下さい。

「記入注意事項」

1. 全般的事項

○本調査は、事業活動によって発生する産業廃棄物・特別管理産業廃棄物、有償あるいは無償で引渡している副産物が対象となります。

○本調査の対象期間は令和6年度(令和6年4月1日～令和7年3月31日)です。

○本調査は事業所単位で行いますので、調査票が送付された事業所に関して以下の質問にお答え下さい。そのため、貴事業所以外に貴社の本社、工場等があってもそれは調査の対象となりません。

○調査票(その2)に貴事業所から発生する産業廃棄物等の状況について、記入して下さい。

○産業廃棄物等が調査の対象期間中に何も発生しなかった場合は、本調査票(その1)の「事業所の概要」欄をご回答の上、ご返送下さい。

○調査票の電子データは、日本環境衛生センターのホームページからダウンロードできます。

<https://www.jesc.or.jp/work/tabid/222/Default.aspx>

2. 調査票(その1)

○従業員数は令和7年3月31日現在としていますが、この時期での集計が難しい場合は、なるべく近い時期の従業員数を記入して下さい。

3. 調査票(その2・裏面)

○自ら再生利用したもの、他者に売却したもの、無償で引き渡しているものも対象となります。

○一般廃棄物は記入不要です(例:使用済みのOA用紙、新聞紙、雑誌、飲料の空き缶・空きびん・ペットボトル、厨芥など)。

○別紙「調査票の記入要領・記入例」を参考に、産業廃棄物等の発生及び処理状況について記入して下さい。

○同じ産業廃棄物等でも、中間処理方法や処分先が違えば、行を分けて記入して下さい。

○発生量には、脱水や焼却など中間処理を行う前の量を記入して下さい。

4. 電子データ(回答調査票)の返送先

○電子データで回答された調査票は、下記のメールアドレスで提出することができます。

E-mail: hik-r@jesc.or.jp

裏面の調査票(その2)に貴事業所から発生する産業廃棄物等の状況について記入して下さい。

裏面へ

産業廃棄物等に関する調査票(令和6年度実績)【その2】 ●別紙「調査票の記入要領・記入例」、「廃棄物等分類表」を参考に記入して下さい。 ●自社で発生した副産物(産業廃棄物、有価・無償引渡物)全てが対象となります。再生利用、売却をしている場合も記入して下さい。

①事業所で発生した廃棄物の名称
貴事業所で日常使用している名称で記入して下さい。(別紙「廃棄物等分類表」に示した具体例を参照)

②廃棄物の分類番号
別紙「廃棄物等分類表」をみて該当する4ケタの番号を記入して下さい。

③年間の発生量(中間処理する前の量)
各行ごとに1年間の発生量を、焼却や脱水などの中間処理をする前の量で記入して下さい。なお、単位は該当するものを選び、○で囲んで下さい。

④自社での中間処理方法
自社で中間処理された場合は、該当する処理方法の記号を下欄の「中間処理方法コード表」から選んで、中間処理の過程順に記入して下さい。

⑤中間処理後の量
中間処理後の残量を記入して下さい。なお、単位は該当するものを選び、○で囲んで下さい。

⑥処理・処分方法
発生(自社で中間処理した場合は、中間処理後の廃棄物)した廃棄物の処理・処分方法を下欄の「処理・処分方法コード表」から選んで、その記号を記入して下さい。

⑦処理・処分先又は再生利用先の名称
処理・処分(⑥に該当する)等を行った先の名称を記入して下さい。

⑧処理・処分先又は再生利用先の所在地
処理・処分(⑦に該当する)等を行った処理・処分施設のある所在地を記入して下さい。

⑨委託中間処理の方法
⑥の「処理・処分方法」で「U」で回答された場合(中間処理を委託)は、委託先で中間処理された内容に該当する処理方法の番号を下欄の「委託中間処理方法コード表」から選んで、中間処理の過程順に記入して下さい。

⑩委託中間処理後の再生利用・処分方法
委託先で中間処理された後の廃棄物の処理方法に該当する番号を下記から選んで、その記号を○で囲んで下さい。

1. 再生利用・リサイクルしている。
2. 埋立処分している。

⑪資源化の使用
⑥の「処理・処分方法」で「V1」又は「V2」で回答された場合、下欄の「資源化用コード表」から該当する番号を記入して下さい。

区分		①廃棄物の名称		②分類番号		③年間発生量		④方法番号		⑤中間処理後量		⑥処理・処分方法		⑦処理・処分先又は再生利用先の名称		⑧処理・処分先又は再生利用先の所在地		⑨方法番号		⑩処理後の処分方法		⑪資源化用途	
F2	行番																						
記	1	洗車汚泥		0	2	2	1									都道府県	市町村						
	2	廃油(エンジンオイル)		0	3	1	1									都道府県	市町村						
	3	使用済みタイヤ(大型車)		0	6	2	5									都道府県	市町村						
	4	使用済みタイヤ(普通・小型車)		0	6	2	6									都道府県	市町村						
入	5	鉄くず(部品くず)		1	2	1	0									都道府県	市町村						
	6	廃プラスチック		0	6	1	0									都道府県	市町村						
	7	ガラスくず		1	3	1	0									都道府県	市町村						
	8	揮発油		0	3	1	8									都道府県	市町村						
欄	9	使用済みバッテリー		3	5	0	0									都道府県	市町村						
	10	クーラント液(LLC)		0	5	0	1									都道府県	市町村						
	11	(上記以外の種類、又は委託先が複数ある場合は下欄に記入して下さい)														都道府県	市町村						
	12															都道府県	市町村						
	13															都道府県	市町村						
	14															都道府県	市町村						
	15															都道府県	市町村						

④中間処理方法コード表

A: 焼却 J: 溶融 R: オートリアー
B: 脱水 K: 切断 S: 要物清毒
C: 天日乾燥 L: 焼成 T: 金属(鉄)回収
D: 機械乾燥 M: 堆肥化(発酵) U: 非鉄金属回収
E: 油水分離 N: 銅回収 V: 濃縮
F: 中和 O: カリウム型化 W: 油化
G: 破砕 P: 乾熱改良 X: 粒度調整・混合
H: 分級 Q: 乾熱減菌 Y: 分別・選別
I: 圧縮 Z: その他

⑤委託中間処理方法コード表

A: 焼却 J: 溶融 R: オートリアー
B: 脱水 K: 切断 S: 要物清毒
C: 天日乾燥 L: 焼成 T: 金属(鉄)回収
D: 機械乾燥 M: 堆肥化(発酵) U: 非鉄金属回収
E: 油水分離 N: 銅回収 V: 濃縮
F: 中和 O: カリウム型化 W: 油化
G: 破砕 P: 乾熱改良 X: 粒度調整・混合
H: 分級 Q: 乾熱減菌 Y: 分別・選別
I: 圧縮 Z: その他

⑥処理・処分方法コード表

<自己処理>
V1: 自社で再処理した。
V2: 売却できないものを自社で再処理した。
W1: 売却(利益があった)した。
Z1: 自社で廃棄している。
Q1: 自社の処分場で埋立処分した。
<産業廃棄物処理業者等へ委託処理>
U1: 処理業者に中間処理(資源化・リサイクル)を委託した。
X1: 廃品回収(資源)業者、あるいは納入業者、関連企業等で再生処理をした。
S1: 民間の処理業者の処分場で直接埋立処理した。
S2: 秋田県環境保全センターで直接埋立処理した。
T1: 処理業者で直接焼却投入した。

⑦資源化用途コード表

10: 鉄鋼原料
20: 非鉄金属等原料
30: 燃料
40: 木材
50: セメント原料
60: 再生油・再生溶剤
70: ガラス原料
80: プラスチック原料
90: セメント原料
91: 再生油・再生溶剤
92: 中和
93: 高炉還元剤
98: その他

⑧資源化用途コード表

10: 鉄鋼原料
20: 非鉄金属等原料
30: 燃料
40: 木材
50: セメント原料
60: 再生油・再生溶剤
70: ガラス原料
80: プラスチック原料
90: セメント原料
91: 再生油・再生溶剤
92: 中和
93: 高炉還元剤
98: その他

産業廃棄物等に関する調査票(令和6年度実績)【その1】

調査票番号

秋田県

医療機関

右記の<記入注意事項>をご確認の上、調査票に記入して下さい

事業所名		事業内容・診療科目	
所在地			
代表者(事業所長)氏名	記入者 ふりがな (部署、氏名)		
記入年月日	令和 年 月 日	電話番号	- -
従業員数		病床数	
事業所の令和7年3月31日現在の 従業員数(パート等の臨時職員及び 役員等を含む)を記入して下さい。		貴事業所の令和7年3月31日現在の病 床数を記入して下さい。	
人		床	

次へ

令和6年度の1年間に産業廃棄物等は発生しましたか。該当する番号に○を付けて下さい。
 ※再生利用された物、有償等で引き渡している副産物も対象として下さい。

1. 発生した。

2. 発生しなかった。

次へ

上記の「事業所の概要」を記入し、ご返送下さい。

次へ

<記入注意事項>

1. 全般的事項

○本調査は、事業活動によって発生する産業廃棄物・特別管理産業廃棄物(感染性産業廃棄物)、有償あるいは無償で引渡ししている副産物が対象となります。

○本調査の対象期間は令和6年度(令和6年4月1日～令和7年3月31日)です。

○本調査は事業所単位で行いますので、調査票が送付された事業所に関する質問にお答え下さい。そのため、貴事業所以外に関連施設等があっても、それは調査の対象となりません。

○調査票(その2)に貴事業所から発生する産業廃棄物等の状況について、記入して下さい。

○産業廃棄物等が調査の対象期間中に何も発生しなかった場合は、本調査票(その1)の「事業所の概要」欄をご回答の上、ご返送下さい。

○調査票の電子データは、日本環境衛生センターのホームページからダウンロードできます。

<https://www.jesc.or.jp/work/tabid/222/Default.aspx>

2. 調査票(その1)

○従業員数、病床数は令和7年3月31日現在としていますが、この時期での集計が難しい場合は、なるべく近い時期の従業員数、病床数を記入して下さい。

3. 調査票(その2・裏面)

○自ら再生利用したもの、他者に売却したもの、無償で引き渡しているものも対象となります。

○一般廃棄物は記入不要です(例:使用済みのOA用紙、新聞紙、雑誌、飲料の空缶・空きびん・ペットボトル、厨芥など)。

○別紙「調査票の記入要領・記入例」を参考に、産業廃棄物等の発生及び処理状況について記入して下さい。

○同じ産業廃棄物等でも、中間処理方法や処分先が違えば、行を分けて記入して下さい。

○発生量には、脱水や焼却など中間処理を行う前の量を記入して下さい。

4. 電子データ(回答調査票)の返送先

○電子データで回答された調査票は、下記のメールアドレスで提出することができます。

E-mail: hik-r@jesc.or.jp

裏面の調査票(その2)に貴事業所から発生する産業廃棄物等の状況について記入して下さい。

裏面へ

＜調査票の記入要領・記入例＞

調査対象期間

- この調査の対象期間は、令和6年度（令和6年4月1日～令和7年3月31日）です。この期間中の薬業物等の発生・処分の状況を質問①～⑩までの流れに従って記入して下さい。

調査対象とする事業所と廃棄物

- この調査では、調査票が送付された事業所内で発生した医薬品等だけが記入の対象となります。
- 医薬品がどのように分類されているかを示すために、裏面に「医薬品等分類表」を掲げてありますので参考にして下さい。

発生量について

- 発生した廃棄物の「名称」と「数量」の回答欄には、「焼却」、「脱水」、「脱水」等の処理を行う前の「名称」と「数量」をお答え下さい。
- 自社で焼却している場合、発生した廃棄物とは焼却前のものです。（記入例Dを参考にして下さい）
- ※まず、紙くず、廃プラスチック等を焼却している場合は「③年間発生量」は、焼却前の量です。従って「①廃棄物の名称」、「②分類番号」は、焼却前の名称と分類番号となります。なお、焼却後の灰の量は「⑤中間処理後量」となります。

- 自来で脱水**している場合は**脱事前のもの**です。(記入例Ⅱ・Fを参考にして下さい)
 汚泥の発生量は、脱水・乾燥等の中間処理を経てからの量であり、脱水機等に投入された1年間の量が「③年間発生量」となります。なお、脱水前の重量を把握している場合は、脱水・乾燥等は、下図の場所より計量して下さい。

$$\text{＜式＞：} (\text{脱水前の汚泥発生量}) = (\text{脱水後の汚泥量}) \times (100\% - \text{脱水後の含水率}\%) \div (100\% - \text{脱水前の含水率}\%)$$

- ただし、以下のものについては、中間処理後のものを発生量としてお答え下さい。
- | | |
|---|--|
| ○屎尿、廃尿、汚泥を公共下水道（河川、公共下水道等）へ放流するために中間処理した割合。 | → 中間処理後の「汚泥」を発生量とします。 |
| ○中水、廃尿、汚泥を公共下水道（河川、公共下水道等）へ放流するために中間処理した割合。 | → 中水、廃尿、汚泥を公共下水道（河川、公共下水道等）へ放流するために中間処理した割合。 |
| ○中水、廃尿、汚泥を公共下水道（河川、公共下水道等）へ放流するために中間処理した割合。 | → 中水、廃尿、汚泥を公共下水道（河川、公共下水道等）へ放流するために中間処理した割合。 |

調査票(その2)の記入例

大字の部分が、記入事例箇所を示しています。記入例を参考にして調査票(その2)を記入して下さい。

本紙の裏面の「廃棄物等
類表」を参照して下さい。

該当する単位に、必ず○をつけて
下さい。

微量又は液状廃棄物を焼却し、焼却灰が1kg未満の場合は、「0(ゼロ)」を記入し、単位はkgに○を付けて下さい。

区分	① 汚染物の名称	② 分類番号	③ 年間の発生量							
			百万	十万	万	千	百	十	単位	
F 2	行 庫									
記入例：A	1 鉄板くず	1 2 1 0						6	kg	①
記入例：B	2 機械油	0 3 1 1					1	0	0	② t
記入例：C	3 プラスチック製品くず	0 6 1 0					7	5	0	③ t
記入例：D	4 木くず	0 6 0 1					1	0		kg
記入例：E	5 排水処理汚泥	0 2 1					5	0		kg
記入例：F	6 特定有害汚泥	0 2 2 9					1	0		kg
欄	7 排水処理汚泥	0 2 1					1	0	0	kg

④方法番号

④方法符号				⑤中间数据					⑥单位	
1次	2次	3次		百	十	千	万	十	百	吨
如型	如型	如型								kg t
										$m^3 \frac{kg}{t}$
										kg t
										$m^3 \frac{kg}{t}$
										kg t
										$m^3 \frac{kg}{t}$
A						5	0	0		$\textcircled{19} \frac{kg}{t}$
B	D							1	0	$\textcircled{18} \frac{kg}{t}$
										$\textcircled{17} \frac{kg}{t}$
										kg t
										$m^3 \frac{kg}{t}$
B									2	$\textcircled{16} \frac{kg}{t}$
									5	$\textcircled{15} \frac{kg}{t}$

⑧处理·处分又后	
----------	--

⑦処理・処分先又は再生利用先の名称	⑧処理・処分先又は再生利用先の所在地	⑨方法番号 1次 処理 2次 処理 3次 処理	⑩処理後の成分 方法	⑪資源化用途
⑥処理・処分先又は再生利用先の名称	秋田		1・2	10
青森県	弘前	E	①2	30
小坂	横手	A	①2	
岩手県	八幡平		1・2	
能代	羽後	F Z	①2	
羽後			1・2	

この欄では、中間処理、再生利用や最終処分した物の名称を記入して下さい。委託した廃棄物が中間処理後に最終処分されている場合は、中間処理者の名称を記入して下さい。

記入例: A

- ・鉄板の加工の際に鉄板くずが年間6 t 発生した。
- ・これは、秋田市にある煉鉄口に売却した。
- ・相手先では鉄鋼材料として利用している。

記入例:B

- ・月平均で一斗は5本ぐらいの機械油が発生した。
- ・重量換算すると年間に1,080kgである。
- ・これは、青森県弘前市の再生業者××商店に処理を有料で依頼した。
- ・相手先では、油水分離後、燃料として再利用している。(18kg×5本×12ヶ月)

記入例・C

- ・プラスチック製品くずが年間750kg発生した。
- ・これは、小坂町にある▼〇棟に処理を委託した。
- ・委託先では、焼却処理し、埋立処分している。

記入例・D

- ・木くずが年間10t発生した。
- ・自社の焼却炉で全て焼却した。
- ・焼却灰は、500kg程度で自社の処分場(横手市)で埋立処分した。

記入例: E

- ・排水処理汚泥が発生した。
・自社の施設で脱水・乾燥を行い、脱水後の残さが10t（含水率85%）であった。
・脱水前の量は、計算していないので正確ではないが、脱水前の含水率が97%であるため計算すると、50t程度となる。
・処理後の汚泥は、△△㈱に運搬を委託し、岩手県八幡平市に処分場を保有する〇〇㈱で直接埋立処分した。
- 計算式 $10t \times (100 - 85) \div (100 - 97) = 50t$

記入例：E

- ・特定有害汚泥と排水処理汚泥が110 t発生した。
- ・特定有害汚泥は、年間10 t処理し、自社での中間処理は行わず、船代10 t処理施設を保有する△産業に収集・運搬及び中間処理を委託した。
- ・業者では、中和及び無害化処理した後、埋立処分している。
- ・また、排水処理汚泥は、濃縮後の100 tを自社の施設で脱水し、処理後の残さ25 tは羽後町の南Oで埋立処分した。

記入について

- 記入対象は、事業活動によって発生する産業廃棄物、有害あるいは無価値で引渡している副産物です。
- 同じ種類の廃棄物でも中間処理方法や処分方法、委託処理先等が異なる場合は、質問①の欄から行を分けて記入して下さい。
- 処理業者へ処理・処分を委託している場合は、マニフェスト伝票等を参考に記入して下さい。不明な点は、具体的な内容を処理業者に確認したうえで記入して下さい。

④中間処理方法コード表	⑤委託中間処理方法コード表	⑥資源化用途コード表
A：焼却 B：焼水 C：天日乾燥 D：環境乾燥 E：自然乾燥 F：中和 G：凝沈 H：分離 I：圧搾 J：圧搾 K：切削 L：焼成（セメント原料材） M：堆肥化（堆肥） N：堆肥化（堆肥） O：固化 P：乾粒減量 Q：炭酸減量 R：炭酸減量 S：炭酸減量 T：炭酸減量 U：炭酸減量 V：炭酸減量 W：炭酸減量 X：炭酸減量 Y：炭酸減量 Z：炭酸減量	A：焼却 B：焼水 C：天日乾燥 D：環境乾燥 E：自然乾燥 F：中和 G：凝沈 H：分離 I：圧搾 J：圧搾 K：切削 L：焼成（セメント原料材） M：堆肥化（堆肥） N：堆肥化（堆肥） O：固化 P：乾粒減量 Q：炭酸減量 R：炭酸減量 S：炭酸減量 T：炭酸減量 U：炭酸減量 V：炭酸減量 W：炭酸減量 X：炭酸減量 Y：炭酸減量 Z：炭酸減量	10：資源化用途コード表 20：鉄屑 30：鉄屑 40：鉄屑 50：鉄屑 60：鉄屑 70：鉄屑 80：鉄屑 90：鉄屑 100：鉄屑 110：鉄屑 120：鉄屑 130：鉄屑 140：鉄屑 150：鉄屑 160：鉄屑 170：鉄屑 180：鉄屑 190：鉄屑 200：鉄屑 210：鉄屑 220：鉄屑 230：鉄屑 240：鉄屑 250：鉄屑 260：鉄屑 270：鉄屑 280：鉄屑 290：鉄屑 300：鉄屑 310：鉄屑 320：鉄屑 330：鉄屑 340：鉄屑 350：鉄屑 360：鉄屑 370：鉄屑 380：鉄屑 390：鉄屑 400：鉄屑 410：鉄屑 420：鉄屑 430：鉄屑 440：鉄屑 450：鉄屑 460：鉄屑 470：鉄屑 480：鉄屑 490：鉄屑 500：鉄屑 510：鉄屑 520：鉄屑 530：鉄屑 540：鉄屑 550：鉄屑 560：鉄屑 570：鉄屑 580：鉄屑 590：鉄屑 600：鉄屑 610：鉄屑 620：鉄屑 630：鉄屑 640：鉄屑 650：鉄屑 660：鉄屑 670：鉄屑 680：鉄屑 690：鉄屑 700：鉄屑 710：鉄屑 720：鉄屑 730：鉄屑 740：鉄屑 750：鉄屑 760：鉄屑 770：鉄屑 780：鉄屑 790：鉄屑 800：鉄屑 810：鉄屑 820：鉄屑 830：鉄屑 840：鉄屑 850：鉄屑 860：鉄屑 870：鉄屑 880：鉄屑 890：鉄屑 900：鉄屑 910：鉄屑 920：鉄屑 930：鉄屑 940：鉄屑 950：鉄屑 960：鉄屑 970：鉄屑 980：鉄屑 990：鉄屑 1000：鉄屑 1010：鉄屑 1020：鉄屑 1030：鉄屑 1040：鉄屑 1050：鉄屑 1060：鉄屑 1070：鉄屑 1080：鉄屑 1090：鉄屑 1100：鉄屑 1110：鉄屑 1120：鉄屑 1130：鉄屑 1140：鉄屑 1150：鉄屑 1160：鉄屑 1170：鉄屑 1180：鉄屑 1190：鉄屑 1200：鉄屑 1210：鉄屑 1220：鉄屑 1230：鉄屑 1240：鉄屑 1250：鉄屑 1260：鉄屑 1270：鉄屑 1280：鉄屑 1290：鉄屑 1300：鉄屑 1310：鉄屑 1320：鉄屑 1330：鉄屑 1340：鉄屑 1350：鉄屑 1360：鉄屑 1370：鉄屑 1380：鉄屑 1390：鉄屑 1400：鉄屑 1410：鉄屑 1420：鉄屑 1430：鉄屑 1440：鉄屑 1450：鉄屑 1460：鉄屑 1470：鉄屑 1480：鉄屑 1490：鉄屑 1500：鉄屑 1510：鉄屑 1520：鉄屑 1530：鉄屑 1540：鉄屑 1550：鉄屑 1560：鉄屑 1570：鉄屑 1580：鉄屑 1590：鉄屑 1600：鉄屑 1610：鉄屑 1620：鉄屑 1630：鉄屑 1640：鉄屑 1650：鉄屑 1660：鉄屑 1670：鉄屑 1680：鉄屑 1690：鉄屑 1700：鉄屑 1710：鉄屑 1720：鉄屑 1730：鉄屑 1740：鉄屑 1750：鉄屑 1760：鉄屑 1770：鉄屑 1780：鉄屑 1790：鉄屑 1800：鉄屑 1810：鉄屑 1820：鉄屑 1830：鉄屑 1840：鉄屑 1850：鉄屑 1860：鉄屑 1870：鉄屑 1880：鉄屑 1890：鉄屑 1900：鉄屑 1910：鉄屑 1920：鉄屑 1930：鉄屑 1940：鉄屑 1950：鉄屑 1960：鉄屑 1970：鉄屑 1980：鉄屑 1990：鉄屑 2000：鉄屑 2010：鉄屑 2020：鉄屑 2030：鉄屑 2040：鉄屑 2050：鉄屑 2060：鉄屑 2070：鉄屑 2080：鉄屑 2090：鉄屑 2100：鉄屑 2110：鉄屑 2120：鉄屑 2130：鉄屑 2140：鉄屑 2150：鉄屑 2160：鉄屑 2170：鉄屑 2180：鉄屑 2190：鉄屑 2200：鉄屑 2210：鉄屑 2220：鉄屑 2230：鉄屑 2240：鉄屑 2250：鉄屑 2260：鉄屑 2270：鉄屑 2280：鉄屑 2290：鉄屑 2300：鉄屑 2310：鉄屑 2320：鉄屑 2330：鉄屑 2340：鉄屑 2350：鉄屑 2360：鉄屑 2370：鉄屑 2380：鉄屑 2390：鉄屑 2400：鉄屑 2410：鉄屑 2420：鉄屑 2430：鉄屑 2440：鉄屑 2450：鉄屑 2460：鉄屑 2470：鉄屑 2480：鉄屑 2490：鉄屑 2500：鉄屑 2510：鉄屑 2520：鉄屑 2530：鉄屑 2540：鉄屑 2550：鉄屑 2560：鉄屑 2570：鉄屑 2580：鉄屑 2590：鉄屑 2600：鉄屑 2610：鉄屑 2620：鉄屑 2630：鉄屑 2640：鉄屑 2650：鉄屑 2660：鉄屑 2670：鉄屑 2680：鉄屑 2690：鉄屑 2700：鉄屑 2710：鉄屑 2720：鉄屑 2730：鉄屑 2740：鉄屑 2750：鉄屑 2760：鉄屑 2770：鉄屑 2780：鉄屑 2790：鉄屑 2800：鉄屑 2810：鉄屑 2820：鉄屑 2830：鉄屑 2840：鉄屑 2850：鉄屑 2860：鉄屑 2870：鉄屑 2880：鉄屑 2890：鉄屑 2900：鉄屑 2910：鉄屑 2920：鉄屑 2930：鉄屑 2940：鉄屑 2950：鉄屑 2960：鉄屑 2970：鉄屑 2980：鉄屑 2990：鉄屑 3000：鉄屑 3010：鉄屑 3020：鉄

⑩処理後の処分方法

- 1 再生利用・リサイクルしている
- 2 埋立処分している

廃棄物を委託している場合で、委託後の具体的な処理・処分を把握していない場合は、委託先へ確認して記入して下さい。また、不定期の回収業者等で、住所などの詳細が不明な場合は、わかる範囲で記入して下さい。

⑩処理後の処分方法

魔界分類等(その2)

※爆発性、毒性、感染性、腐食性などの有害な性状を有している廃棄物は、本用紙右下の特別管理産業廃棄物の分類表をご参照ください。

種 類	分類番号	具 体 例
ガラスくず	1310	白熱電球、窓ガラス、ひしめ、ガラスボール、ガラス食器、光学レンズ、クリスタルガラス、理化学用ガラス実験器具、薬品ビン
	1320	セラミックスくず、レンガ、かわら、陶器
	1330	石膏ボードくず
	1340	コンクリート製品くず
窯 さい	1401	材料砂、サンゴトラスト粗砂
	1402	高炉水さい、高炉の灰さ、平炉の灰さ、転炉の灰さ、電気炉の灰さい、キューボラのフロ、ドロ、ガラス
	1403	不良鉱石、ボタ、粉砕かす、鉱じん、破石くず
	1510	コンクリート破片、コンクリートブロック破片
破 さい	1520	アスファルトコンクリートの破片
	1530	鉄鋼用線路の鉄鋼、骨材、石材、レンガ、スレート、タイル、断熱材
	1600	家畜のふん尿、牛のふん尿、豚のふん尿、にわどりのふん尿、馬のふん尿
	1700	家畜の死体、牛の死体、豚の死体、にわどりの死体、馬の死体
燃 え 灰	1800	燃え灰集じん器前集灰ダスト、集じん器前集灰ダスト、煙突・煙突に付着集じんしたす
	0101	燃料などの焼却灰（石炭灰、コークス灰、重油灰、木灰、炉排出物、クリンカなど） （注意！）可燃ごみなどを自分で焼却処理した場合、「燃え灰」ではなく、焼却する前の「灰汁」、「本くず」等を発生時の種類として記入してください。
	0102	焼却性炭・廃カーボン
	2100	廃プラスチック類、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類のものを含む混合物で分別できない廃棄物
混 合 廃 棄 物	2200	廃プラスチック類、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類以外の廃棄物の含有混合物で分別できない廃棄物
	3000	廃自動車、第二車
	3100	自動車用配線、テレビ、エアコン、冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、パソコン、電話機、自動販売機など
	3500	鉛蓄電池（バッテリー）、乾電池（水銀を含むものを除く）
複 合 材	3600	2つ以上の異なる素材が一体的に組み合わされている製品の廃棄物
	2300	廃自動車破砕物、廃電気自動車破砕物、廃電気自動車に使用した生じ后連乗車破砕物である、石炭および重量の0.1%を超えて含有するもの、ヒール底タイル（廃プラスチック類）、スレート板、サイディング石（セメント板（がれき類）など
	2400	1工作物の新機、改機又は除去に供する生じ后連乗車破砕物である、石炭および重量の0.1%を超えて含有するもの、ヒール底タイル（廃プラスチック類）、スレート板、サイディング石（セメント板（がれき類）など
	2500	水銀電池、空気酸化電池、照明機器（蛍光灯ランプ、HIDランプ、放電ランプ）、医薬品、水銀製品、水銀加工計など、水銀等の使用に関する袋が有る製品
水 銀 含 有 ば い じ ん 等	2600	水銀が1kgにつき1.5mgを超えて含有するもの（ばいじん、燃え灰、汚泥、鉱さい） 水銀が1 Lにつき1.5mgを超えて含有するもの（酸液、廃アルカリ）
※爆発性、毒性、感染性、腐食性などの有害な性状を有している廃棄物は特別管理産業廃棄物として分類されます。		
引 火 性 廃 油	0318	揮発油類（燃やすやすい廃油、ガソリン、灯油、軽油、シンナー、トルエン、キシレン、エーテル、灯油など）
	0408	水素イオン濃度指数（pH）1.25以下の廃アルカリ
	0508	水素イオン濃度指数（pH）1.25以上の廃アルカリ
	2018	血液、血清、血漿、体液（精液を含む）、血液製剤、血液等が付着した破れたもの（注射針、メス、針管、シヤシヤ、ガラスくず等）、血液等が付着した実験・手術用手袋等、消毒滅菌物に使用した紙類・検査等に用いられたもの（試験管、シャーシ等）、汚染物が付着した廃プラスチック類等
特 定 有 害 燃 え 灰	0109	特定有害物質を含む焼却灰
	0219	特定有害物質を含む汚泥
	0229	特定有害物質を含む汚泥
	0319	特定有害物質を含む廃油、トリクロロエチレン・テトラクロロエチレンを含む廃油等
特 定 有 害 腐 蝕 液	0409	特定有害物質を含む酸性液
	0509	特定有害物質を含むアルカリ性液
特 定 有 害 腐 蝕 石 綿 等	1538	吹付付石綿（アスベスト）、石綿含有保温材、大気汚染防止法の特定初生じん発生施設を有する産業施設の集じん装置で集められた熱酸性の石綿など
	1409	特定有害物質を含む鉱さい
特 定 有 害 ば い じ ん	1809	特定有害物質を含むばいじん
	7419	銅POB等、PCB汚染物、PCB処理物
	7440	特定の施設において生じ后連乗車破砕物（水銀使用製品が連乗車破砕物と同一のもの）に記入された汚染物（廃油等）
	7440	水銀使用製品が連乗車破砕物となったものから回収した廃水銀

廃棄物として分類されます。

廃棄物として分類されます。

< 調査票の記入要領・記入例 >

調査対象期間

- この調査の対象期間は、令和6年度（令和6年4月1日～令和7年3月31日）の1年間です。この期間中の廃棄物等の発生と処理・処分の状況を質問①～④までの流れに従って記入して下さい。

調査対象とする事業所と廃棄物

- この調査では、**調査票が送付された事業所内で発生した廃棄物だけが記入の対象**となります。
- 廃棄物がどのように分類されているかを示すために、裏面に「**廃棄物等分類表**」を掲げてありますので参考にして下さい。

発生量について

- 発生した廃棄物の「名称」と「数量」の回答欄には、「**焼却**」、「**脱水**」等の処理を行う前の「**名称**」と「**数量**」をお答え下さい。
○**自社で焼却**している場合、発生した廃棄物とは**焼却前のもの**です。
不くず、紙くず、廃プラスチック等を焼却している場合の「③年間発生量」は、焼却前の量です。従って「①廃棄物の名称」、「②分類番号」は、焼却する前の名称とその分類番号となります。なお、焼却後の灰の量が「⑤中間処理後量」となります。
- 自社で脱水・乾燥**している場合の発生した廃棄物とは**脱水前・乾燥前のもの**です。（記入例A・B・D・Eを参考して下さい）
汚泥の発生量は、脱水、乾燥等の中間処理を行う前の量であり、脱水機等に投入された1年間の量が「③年間発生量」となります。なお、脱水前の重量を把握していない場合は、下記の式より計算して下さい。
<式>：（脱水前の汚泥発生量）＝（脱水後の汚泥量）×（100％－脱水後の含水率％）÷（100％－脱水前の含水率％）

調査票（その2）の記入例

太字の部分が、記入事例箇所を示しています。記入例を参考にして調査票（その2）を記入して下さい。

本紙の裏面の「**廃棄物等分類表**」を参照して下さい。

該当する単位に、必ず〇をつけて下さい。

数量又は液体廃棄物を焼却し、焼却灰が1kg未満の場合は、「0（ゼロ）」を記入し、単位はkgに〇を付けて下さい。

区分	①廃棄物の名称	②分類番号				③年間発生量				単位		
		百	十	千	万	百	十	千	万			
F 2	行番											
1	下水汚泥	0	2	1	2	1	0	2	1	0	kg m ³	①
2	下水汚泥	0	2	1	2	6	7	2	1		kg m ³	① ②
3	廃油	0	3	1	1	1	0	0			kg m ³	② ③
4											kg t	③ ④
5	上水汚泥	0	2	2	3	2	8	1	8		kg m ³	① ②
6	上水汚泥	0	2	2	3	3	1	8	1		kg m ³	① ②
7											kg t	③ ④
8											kg t	③ ④

⑥ 処理・処分先又は 再生利用先の名称等	⑦ 処理・処分先又は 再生利用先の所在地	⑧ 方法番号 1次：2次：3次： 処理：処理：処理：	⑨ 処理後の 処分の 方法				⑩ 資源化用途			
			1次	2次	3次	処理	1次	2次	3次	処理
U 1 O x セメント 焼	大館 市	L				① 2				90
S 1 焼 O O	秋田 市					1・2				
U 1 焼 O x 産業	福島県 福島 市	E				① 2				30
						1・2				
U 1 O x セメント 焼	男鹿 市	L				① 2				90
Q 1 自社	秋田 市					1・2				
						1・2				
						1・2				

※下水汚泥は、汚泥濃縮設備の濃縮汚泥量を発生量として記入して下さい。

記入例：A

- ・下水汚泥が年間10,210t発生した。
- ・自社の施設で脱水を行い、脱水後の量が833tであった。
- ・処理後の汚泥は大館市のセメント工場でセメント原料としてリサイクルした。

記入例：B

- ・下水汚泥が年間6,721t発生した。
- ・自社の施設で脱水→機械乾燥を行い、処理後の量が374tであった。
- ・処理後の汚泥は、秋田市にある焼〇〇の埋立地で埋立処分した。

記入例：C

- ・廃油が100kg発生した。
- ・これは福島県の南〇産業に処理を委託した。
- ・委託先では、油水分離後に燃料として再利用している。

記入例：D

- ・上水汚泥が年間2,818t発生した。
- ・自社の施設で天日乾燥を行い、処理後の量が1,293tであった。
- ・処理後の汚泥は男鹿市のセメント工場でセメント原料としてリサイクルした。

※上水汚泥は、脱水・乾燥施設に投入した濃縮汚泥量を発生量として記入して下さい。

記入例：E

- ・上水汚泥が年間3,181t発生した。
- ・自社の施設で脱水を行い、処理後の量が405tであった。
- ・処理後の汚泥は自社の処分場で埋立処分した。

記入について

- 記入対象は、事業活動によって発生する産業廃棄物、有価あるいは無償で引渡している副産物です。
- 同じ種類の廃棄物でも中間処理方法や処分方法、委託処理先等が異なる場合は、質問⑩の欄から行を分けて記入して下さい。
- 処理業者へ処理・処分を委託している場合は、マニフェスト伝票等を参考にして記入してください。不明な点は、具体的な内容を処理業者に確認したうえで記入して下さい。

④中間処理方法コード表	⑥処理・処分方法コード表	⑨委託中間処理方法コード表	⑪資源化用途コード表
A：焼却 B：脱水 C：天日乾燥 D：機械乾燥 E：油水分離 F：中和 G：中和・堆肥 H：分岐 I：圧縮 J：選別 K：切断 L：焼成（セメント原料用） M：堆肥化（焼酎） N：顔回収 O：リサイクル型化 P：金属（鉄）回収 Q：非鉄金属回収 R：その他	<自己処理> V1：自社で再利用した。 V2：売却できないものを自社で再利用した。 W1：売却（利益があった）した。 Z1：自社で保管している。 Q1：自社の処分場で埋立処分した。 <事業関係の処理業者等へ委託処理> U1：事業関係の中間処理（資源化・リサイクルを含む）を委託した。 X1：顔回収（焼酎）業者、あるいは納入業者、関連企業等で再生処理をした。 S1：処理業者の処分場で直接埋立処分した。 S2：秋田県環境保全センターで直接埋立処分した。 T1：処理業者で直接海洋投入した。 <中部村・一部事務組合へ委託処理（ごみ収集を含む）> R1：中部村等が設置する埋立処分場へ納入した。 R2：中部村等が設置する焼却炉へ納入した。 R3：中部村等が設置するリサイクル施設に納入した。 Z9：その他	A：焼却 B：脱水 C：天日乾燥 D：機械乾燥 E：油水分離 F：中和 G：中和・堆肥 H：分岐 I：圧縮 J：選別 K：切断 L：焼成（セメント原料用） M：堆肥化（焼酎） N：顔回収 O：リサイクル型化 P：金属（鉄）回収 Q：非鉄金属回収 R：その他	10：鉄屑原料 20：非鉄金属等原料 30：燃料 31：木材 40：肥料 41：堆肥 42：飼料 43：土壌改良材 50：土木・建設材料 51：再生木材・合板 60：パルプ・紙原料 70：プラスチック原料 80：プラスチック原料 81：再生タイヤ 90：セメント原料 91：再生油・再生溶剤 92：中和剤 93：廃炉運入 98：その他

⑩処理後の処分方法
1 再生利用・リサイクルしている
2 埋立処分している

廃棄物を委託している場合で、委託後の具体的な処理・処分を把握していない場合は、委託先へ確認して記入して下さい。また、不定期の回収業者等で、住所などの詳細が不明な場合は、わかる範囲で記入して下さい。

廃棄物等分類表(その1)

※腐食性、毒性、感染性、腐食性などの有害な性状を有している廃棄物は、本用紙右下の特別管理産業廃棄物の分類表をご参照ください。

1. 産業廃棄物(特別管理産業廃棄物を除く)

種 別	分類番号	具 体 例
有機性汚泥	0211	製紙汚泥、活性汚泥(余剰汚泥)、ビルビット汚泥(し尿を含むものを除く)、染色排水の処理汚泥、洗剤の排水処理汚泥(水流を主とする場合)、イースト菌培養残渣、その他記号を呈する有機性汚泥
	0212	下水汚泥
無機性汚泥	0221	めつぎ汚泥、金属表面処理汚泥、研磨汚泥、砂利洗浄汚泥、セメント工場排水処理汚泥、農業排水処理汚泥、水酸化アルミ汚泥、イオン交換樹脂洗浄液処理汚泥、金属加工粉体、廃シヨットプラスト(さび腐ししたものに限定)、廃サンドブラスト(塗料かき落としに限定)、廃硝石ころ、赤泥、ガラス粉砕汚泥、金属研磨汚泥、道路側溝汚泥、売却汚泥、廃白土、油水分離後の汚泥、焼結料、その他記号を呈する無機性汚泥
	0222	建設高含水率汚泥、ベントナイト汚泥
一般廃油	0223	上水汚泥
	0311	エンジンオイル、機油、グリソ、切削油、絶縁油、圧延油、作動油、重油、重油、潤滑油、燃料
動植物性油脂	0312	魚油、鯨油、ハット、ラード、天ぷら油、サラダ油、アマニ油、桐油、ゴマ油、なたね油、やし油、大豆油、とうもろこし油
	0320	アルコール類、ケトン、洗浄油
溶剤	0330	アスファルト、タールピッチ類、ハラフインろう、固形石けい、固形脂肪類、フレンジン、バステル
	0340	タンクスラッジ、オイルスラッジ、オイルトラップ汚泥、油性スカム
油付着物等	0350	漆のしみだけスエ、油紙くず、廃吸油材、廃シール材、クレオソート廃油、アンダーコートかす、廃塗料(液状)、インクかす、廃ワニス
無機性の酸性廃液	0401	塩酸、硫酸、フッ酸、クロム酸、リン酸、フッ化水素酸、過塩素酸、スルファミン酸、ケイフッ酸、酸性洗浄液、エッチング液、染色酸性廃液(漂白浸透工程、染色工程)、クロマトー廃液、硝酸ピッチ
	0402	写真定着液
有機性の酸性廃液	0403	干酸、酢酸、シュウ酸、酒石酸、クエン酸、アルコール発酵液、アミン酸発酵液
	0501	アルカリ性洗浄液、液洗び用液アルカリ、石灰液、脱脂液、アルカリ性メッキ液、液、ドラロイト廃液、染色排水(精練工程)、シリカゲル(チップ洗浄液)、脱脂液(金属表面処理)、塩化ソーダ液、廃クローラント液(くろくろ)
写真現像液	0502	写真現像液
廃プラスチック類	0610	【熱可塑性】ポリエチレン樹脂、ポリスチレン樹脂、ポリプロピレン樹脂【熱硬化性】フェニール樹脂(へんろうざい)、ウリア樹脂、エポキシ樹脂、【合成繊維】ナイロン繊維、ポリエステル繊維、アクリル繊維、湿紡繊維、化繊ローフ、【その他】プラスチック製品くず、プラスチック容器、糸湯スチロール、ビニールシート、フィルム、プラスチックタイル、セルロイド、繊維強化プラスチック(FRP)、塗料かす(固形)、接着剤かす、合成ゴムくず、塩ビ管
	0615	石油などの化学資源からではなく生物資源(バイオマス)から作られたプラスチック
使用済みタイヤ	0625	大型車の使用済みタイヤ
	0626	普通車・軽自動車の使用済みタイヤ
紙	0701	ハルビ・紙、紙加工品製造業、印刷業、製本業、出版業等から排出される紙くず
	0801	木くず、おがくず、かんなくず、パーク種、竹、パニヤ、ベニヤボード類
繊維	0802	ハレット、ハレットへの貨物の梱付けのために使用したごみ用の木材
	0900	羊毛、絹、綿、麻の天然繊維、レーヨン、アセート繊維(天然繊維が主体のもの)【注意1】合成繊維は「廃プラスチック類」に分類されます。
動植物性残さ	1001	魚・獣の骨・肉類などあら、皮革くず、ホイルかす、缶詰め・瓶詰め不良品、乳製品類類類、卵から、貝殻、卵毛
	1002	ソースかす、醤油かす、こうじかす、酒かす、油かす、ビールかす等の発酵・醸造かす、あめかす、麹かす、でんぷるかす、豆腐かす、あんかす、茶かす、米、麦、大豆、大豆かす、不良豆、菓物の皮、種子、野菜くず、菓なかす、油かす、パンくず、屑かす
動物系面形不要物	4000	と畜場から生ずる動物に係る面形の不要物、食肉処理場から生ずる面形に係る面形の不要物
	1100	ゴムくず、エポナイトくず、ゴム手袋、ゴムチューブ、ゴム線くず
金属	1210	鉄くず、スチラップ(主体が鉄製の場合)、プリキくず、トンクくず、空缶(鉄製の)
	1220	銅線、銅くず、アルミくず、アルミ缶
混合金属くず	1230	自社にて分別を行わなかったものや分別不可能なもの

廃棄物等分類表(その2)

種 別	分類番号	具 体 例
ガラスくず	1310	白熱電球、蛍光灯、びん類、ガラスワール、ガラス電線、光学レンズ、クリスタルガラス、埋込用ガラス器具、薬品ビン
	1320	セラミックくず、レンガ、かわら、陶器
石質ボードくず	1330	石膏ボードくず
	1340	コンクリート製品くず
金属くず	1401	鉄粉類、サンドブラスト塵粉
	1402	高炉水くず、高炉の残渣、平炉の残渣、転炉の残渣、電気炉の残渣、キューボラのノロ、トコ、ガラス
鉱さい類	1403	不純炭石、ボラ、粉砕かす、鉱じん、炭石くず
	1510	コンクリート破片、コンクリートブロック破片
アスファルト	1520	アスファルトコンクリートの破片
	1530	鉄道用線路の砂利、骨材、石灰、レンガ、スレート、タイル、断熱材
動物の死体	1600	家畜のふん尿、牛のふん尿、豚のふん尿、にわとりふん尿、馬のふん尿
	1700	家畜の死体、牛の死体、豚の死体、にわとりの死体、馬の死体
ばいじん	1800	産業用じん粉類ダスト、集じん器捕集ダスト、塵埃・塵埃に付着性集じん粉類
	0101	燃料などの焼却灰(石炭灰、コークス灰、重油灰、木灰、炉排出物、クリンカなど)【注意1】可燃ごみなどを自己焼却処理した場合、「燃え残し」ではなく、焼却する前の「灰くず」「木くず」等を発生地の環境として投入してください。
廃活性炭	0102	廃活性炭、廃カーボン
	2100	廃プラスチック類、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び副産物くず、がれき類のみなを含む混合物で分別できない廃棄物
混合廃棄物	2200	廃プラスチック類、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び副産物くず、がれき類以外の廃棄物を含む混合物で分別できない廃棄物
	3000	廃自動車、廃二輪車
複合品	3100	プリント基板、テレビ、エアコン、冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、パソコン、電話機、自動車機器など
	3500	鉛蓄電池(バッテリー)、乾電池(水銀を含むものを除く)
複合材	3600	2つ以上の異なる素材が一体的に組み合わされている製品の廃棄物
	2300	廃自動車破砕物、廃電気機械器具破砕物
シュレッダーダスト	2400	工作物の新製、改製又は除去に際して生じた産業廃棄物である、石炭をその重量の0.1%を超えて含むもの、ビニールシート(廃プラスチック類)、スレート板、サイディング、石膏セメント板(がれき類)など
	2500	水銀電池、空気圧縮機、照明機器(蛍光灯ランプ、HIDランプ、放電ランプ)、水銀体温計、水銀血圧計など、水銀等の使用に関する表示がある製品
水銀含有品等	2600	水銀を1kgにつき15mgを超えて含むもの(ばいじん、燃え残、汚泥、ぬきい)
	11	水銀を1Lにつき15mgを超えて含むもの(廃酸、廃アルカリ)
廃棄物として分類されます。	0318	揮発油類(軽油やすり油、ガソリン、灯油、軽油、シナー、トルエン、キシレン、エーテルなど)
	0408	水素イオン濃度指数(pH)12.5以下の廃アルカリ
腐食性廃アルカリ	0508	水素イオン濃度指数(pH)12.5以上の廃アルカリ
	0319	血漿、血漿、血漿(凍結を含む)、血漿製剤、血漿等が付着した軽便列車の(生体材料、マウス、試験管、シャーレ、ガラスくず等)、血漿等が付着した軽便列車、廃便尿、尿に隣接した試験管・検査等に用いられたもの(試験管、シャーレ等)、汚染物が付着した廃プラスチック類等
特定有害燃え殻	0109	特定有害物質を含む焼却灰
	0219	特定有害物質を含む汚泥
特定有害無機性汚泥	0229	特定有害物質を含む汚泥
	0329	特定有害物質を含む汚泥、トリクロロエチレン・チクロロエチレンを含む廃油等
特定有害廃油	0409	特定有害物質を含む酸性廃液
	0509	特定有害物質を含むアルカリ性廃液
特定有害廃アルカリ	1538	吹雪付け石炭(アスベスト)、石炭含有物、石炭含有物、大気汚染防止法の特定期間施行発生施設を有する事業場のじんばいじん採取で集められた飛散性の石炭など
	1409	特定有害物質を含むばいじん
特定有害ばいじん	1809	特定有害物質を含むばいじん
	7419	廃PCB等、PCB汚染物、PCB処理物
廃水銀等	7440	特定の施設において生じた廃水銀又は廃水銀化合物(水銀使用製品が産業廃棄物になったものに投入された廃水銀等を除く)、水銀をくすはる化合物が含まれている産業廃棄物、又は水銀使用製品が産業廃棄物となったものから回収した廃水銀

※腐食性、毒性、感染性、腐食性などの有害な性状を有している廃棄物は特別管理産業廃棄物として分類されます。

2. 特別管理産業廃棄物

引火性廃油	0318	揮発油類(軽油やすり油、ガソリン、灯油、軽油、シナー、トルエン、キシレン、エーテルなど)
腐食性廃アルカリ	0408	水素イオン濃度指数(pH)12.5以下の廃アルカリ
腐食性廃アルカリ	0508	水素イオン濃度指数(pH)12.5以上の廃アルカリ
特定有害燃え殻	0109	特定有害物質を含む焼却灰
特定有害無機性汚泥	0219	特定有害物質を含む汚泥
特定有害無機性汚泥	0229	特定有害物質を含む汚泥
特定有害廃油	0329	特定有害物質を含む汚泥、トリクロロエチレン・チクロロエチレンを含む廃油等
特定有害廃油	0409	特定有害物質を含む酸性廃液
特定有害廃アルカリ	0509	特定有害物質を含むアルカリ性廃液
特定有害廃石綿等	1538	吹雪付け石炭(アスベスト)、石炭含有物、石炭含有物、大気汚染防止法の特定期間施行発生施設を有する事業場のじんばいじん採取で集められた飛散性の石炭など
特定有害ばいじん	1409	特定有害物質を含むばいじん
特定有害ばいじん	1809	特定有害物質を含むばいじん
廃PCB等	7419	廃PCB等、PCB汚染物、PCB処理物
廃水銀等	7440	特定の施設において生じた廃水銀又は廃水銀化合物(水銀使用製品が産業廃棄物になったものに投入された廃水銀等を除く)、水銀をくすはる化合物が含まれている産業廃棄物、又は水銀使用製品が産業廃棄物となったものから回収した廃水銀

< 調査票の記入要領・記入例 >

調査対象期間

- この調査の対象期間は、令和6年度（令和6年4月1日～令和7年3月31日）です。この期間中の廃棄物等の発生と処理・処分状況を質問①～④までの流れに従って記入して下さい。

調査対象とする事業所と廃棄物

- この調査では、**県内で施工した土木工事から発生した廃棄物等だけが記入の対象**となります。
- 廃棄物がどのように分類されているかを示すために、裏面に「**廃棄物等分類表**」がありますので参考にして下さい。

発生量について

- 発生した廃棄物の「名称」と「数量」の回答欄には、「**焼却**」、「**脱水**」等の処理を行う前の「**名称**」と「**数量**」をお答え下さい。
- 自分で焼却**している場合、発生した廃棄物とは**焼却前のもの**です。（記入例Cを参考して下さい）
木くず、紙くず、廃プラスチック等を焼却している場合の「③年間発生量」は、焼却前の量です。従って「①廃棄物の名称」、「②分類番号」は、**焼やす前の名称とその分類番号**となります。なお、焼却後の灰の量が「⑤中間処理後量」となります。
- 自分で脱水**している場合は発生した廃棄物とは**脱水前のもの**です。（記入例Eを参考にして下さい）
汚泥の発生量は、脱水、乾燥等の中間処理を行う前の量であり、脱水機等に投入された1年間の量が「③年間発生量」となります。なお、脱水前の重量を把握していない場合は、下記の式より計算して下さい。
式>：（脱水前の汚泥発生量）＝（脱水後の汚泥量）×（100％－脱水後の含水率％）÷（100％－脱水前の含水率％）
- ただし、以下のものについては、中間処理後のものを発生量としてお答え下さい。
○廃酸、廃アルカリを公共水域（河川、公共下水道等）へ放流するため中和処理した場合。 → 中和処理後の「汚泥」を発生量とします。
○全知排水を油水分離した場合。 → 油水分離後の「廃油」と「油でい」等を個別に（それぞれ1行ずつを）発生量とします。

調査票（その2）の記入例

太字の部分が、記入事例箇所を示しています。記入例を参考にして調査票（その2）を記入して下さい。

本紙の裏面の「産業廃棄物等分類表」を参照して下さい。

該当する単位に、必ず○をつけて下さい。

記入例：A	区分	①廃棄物の名称	②分類番号		③年間発生量					④方法番号					⑤中間処理後量					⑥処理・処分方法				
					百	十	万	千	百	十	一	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
記入例：A	1	鉄筋くず	1	2	1	0																		
記入例：B	2	木くず	0	8	0	1																		
記入例：C	3	廃プラスチック	0	6	1	0																		
記入例：D	4	廃プラスチック	0	6	1	0																		
記入例：E	5	ペントナイト汚泥	0	2	2																			
記入例：F	6	コンクリートのがれき	1	5	1	0																		
記入例：F	7	コンクリートのがれき	1	5	1	0																		
欄	8																							

記入例：A

- ・工事現場から鉄筋くずが年間9 t 発生したが、すべて、秋田市の㈱△△産業に売却した。
- ・相手先では、鉄鋼材料として再生利用している。

記入例：B

- ・工事現場から建設くずが30 t 発生したが、1 t 程度であるため、重量に換算すると、30 t である。
- ・これは、男鹿市にある〇〇商店に料金を払って処理を委託した。
- ・相手先では、破碎チップ化し、燃料として再生利用している。

記入例：C

- ・工事現場から廃プラスチックが年間10 t 発生した。
- ・すべて自社の焼却炉で焼却した。その灰の量は年間1 t 程度であり、大湯町にある㈱×〇の処分場で埋立処分した。

記入例：D

- ・工事現場から廃プラスチックが年間5 m³発生した。
- ・これは、能代市にある■▼㈱に中間処理を委託した。
- ・委託先では圧縮して固形燃料を製造している。

記入例：E

- ・工事現場からペントナイト汚泥が発生したが、すべて工事現場内で脱水した。
- ・脱水後の汚泥量は、100 t（含水率70％）であった。
- ・脱水前の量は、計量していないので正確でないが、脱水後の含水率が95％であるため計算すると600 t となる。
- ・処理後の汚泥は、㈱〇〇に運搬を委託し、福島県郡山市内に管理型処分地を保有する〇〇㈱で埋立処分した。
- ・計算式 100 t × (100 - 70) ÷ (100 - 95) = 600 t

記入例：F

- ・工事現場からコンクリートのがれき等が10 t ダンプで12台発生した。重量に換算すると120 t 程度である。
- ・このうち、10 t は、㈱〇〇に収集・運搬を委託し、仙北市に処分場を保有する㈱〇〇で埋立処分した。
- ・残りの10 t は、小坂町に破碎プラントを保有する△△㈱に中間処理を委託した。△△㈱では破碎後、骨材として再生利用している。

記入について

- 記入対象は、事業活動によって発生する産業廃棄物、有価あるいは無償で引渡している副産物です。
- 同じ種類の廃棄物でも中間処理方法や処分方法、委託処理先等が異なる場合は、質問①の欄から行を分けて記入して下さい。
- 処理業者へ処理・処分を委託している場合は、マニフェスト伝票等を参考に記入してください。不明な点は、具体的な内容を処理業者に確認したうえで記入して下さい。

④中間処理方法コード表 A：焼却 B：脱水 C：天日乾燥 D：機械乾燥 E：油水分離 F：中和 G：分別 H：分別 I：圧縮 J：圧縮 K：焼成（セメント原料材料） L：焼成（セメント原料材料） M：焼成（セメント原料材料） N：焼成（セメント原料材料） O：焼成（セメント原料材料） P：乾燥 Q：乾燥 R：オートクレーブ S：炭化 T：炭化 U：非鉄金属回収 V：選別 W：選別 X：知覚調整・混合 Y：分別・選別 Z：その他	⑤処理・処分方法コード表 A：焼却 B：脱水 C：天日乾燥 D：機械乾燥 E：油水分離 F：中和 G：分別 H：分別 I：圧縮 J：圧縮 K：焼成（セメント原料材料） L：焼成（セメント原料材料） M：焼成（セメント原料材料） N：焼成（セメント原料材料） O：焼成（セメント原料材料） P：乾燥 Q：乾燥 R：オートクレーブ S：炭化 T：炭化 U：非鉄金属回収 V：選別 W：選別 X：知覚調整・混合 Y：分別・選別 Z：その他	⑥処理・処分方法コード表 A：焼却 B：脱水 C：天日乾燥 D：機械乾燥 E：油水分離 F：中和 G：分別 H：分別 I：圧縮 J：圧縮 K：焼成（セメント原料材料） L：焼成（セメント原料材料） M：焼成（セメント原料材料） N：焼成（セメント原料材料） O：焼成（セメント原料材料） P：乾燥 Q：乾燥 R：オートクレーブ S：炭化 T：炭化 U：非鉄金属回収 V：選別 W：選別 X：知覚調整・混合 Y：分別・選別 Z：その他	⑦処理・処分方法コード表 A：焼却 B：脱水 C：天日乾燥 D：機械乾燥 E：油水分離 F：中和 G：分別 H：分別 I：圧縮 J：圧縮 K：焼成（セメント原料材料） L：焼成（セメント原料材料） M：焼成（セメント原料材料） N：焼成（セメント原料材料） O：焼成（セメント原料材料） P：乾燥 Q：乾燥 R：オートクレーブ S：炭化 T：炭化 U：非鉄金属回収 V：選別 W：選別 X：知覚調整・混合 Y：分別・選別 Z：その他	⑧処理・処分方法コード表 A：焼却 B：脱水 C：天日乾燥 D：機械乾燥 E：油水分離 F：中和 G：分別 H：分別 I：圧縮 J：圧縮 K：焼成（セメント原料材料） L：焼成（セメント原料材料） M：焼成（セメント原料材料） N：焼成（セメント原料材料） O：焼成（セメント原料材料） P：乾燥 Q：乾燥 R：オートクレーブ S：炭化 T：炭化 U：非鉄金属回収 V：選別 W：選別 X：知覚調整・混合 Y：分別・選別 Z：その他	⑨委託中間処理方法コード表 A：焼却 B：脱水 C：天日乾燥 D：機械乾燥 E：油水分離 F：中和 G：分別 H：分別 I：圧縮 J：圧縮 K：焼成（セメント原料材料） L：焼成（セメント原料材料） M：焼成（セメント原料材料） N：焼成（セメント原料材料） O：焼成（セメント原料材料） P：乾燥 Q：乾燥 R：オートクレーブ S：炭化 T：炭化 U：非鉄金属回収 V：選別 W：選別 X：知覚調整・混合 Y：分別・選別 Z：その他	⑩資源化用途コード表 10：鉄鋼原料 20：非鉄金属原料 30：燃料 40：肥料 50：土壌改良材 60：土木・建設材料 70：ガラス原料 80：プラスチック原料 90：セメント原料 91：セメント原料 92：セメント原料 93：セメント原料 94：セメント原料 95：セメント原料 96：セメント原料 97：セメント原料 98：その他
---	--	--	--	--	---	---

- ⑩処理後の処分方法
- 再生利用・リサイクルしている
 - 埋立処分している

- ⑪処理後の処分方法
- 再生利用・リサイクルしている
 - 埋立処分している

- ⑫処理後の処分方法
- 再生利用・リサイクルしている
 - 埋立処分している

- ⑬処理後の処分方法
- 再生利用・リサイクルしている
 - 埋立処分している

- ⑭処理後の処分方法
- 再生利用・リサイクルしている
 - 埋立処分している

- ⑮処理後の処分方法
- 再生利用・リサイクルしている
 - 埋立処分している

- ⑯処理後の処分方法
- 再生利用・リサイクルしている
 - 埋立処分している

廃棄物等分類表(その1)

1. 産業廃棄物(特別管理産業廃棄物を除く)

種 類		分類番号	具 体 例
汚泥 (泥状のもの)	有機性汚泥	0211	排水処理汚泥、ヒルビット汚泥（し尿を含むものは除く）
	無機性汚泥	0222	建設高含水率汚泥、ベントナイト汚泥、道路側溝汚泥く建設残土は除く＜
廃油	一般廃油	0311	重機等の潤滑油、エンジンオイル、機械油、グリス、切削油、絶縁油
	溶剤	0320	アルコール類、ケトン、洗浄油
	形状油	0330	アスファルト、タールピッチ類
	で	0340	タンクスラッジ、オイルトラップ汚泥、油性スカム
	油付着物等	0350	油の滲みだりエス、油膜くず、吸吸油材、廃シール材、クレオソート廃油、アンダーコートかす、廃塗料（液状）、インキかす、腐りニス
廃醗	無機性の酸性廃液	0401	廃液で酸性を呈するもの
	アルカリ性廃液	0501	廃液でアルカリ性を呈するもの
廃プラスチック類	プラスチック	0610	【熱可塑性】ポリエチレン樹脂、ポリスチレン樹脂、ポリプロピレン樹脂 【熱硬化性】フェニール樹脂（エポクライト）、ユリア樹脂、エポキシ樹脂、メラニン樹脂、ウレタン樹脂 【合成繊維】ナイロン繊維、ポリエステル繊維、アクリル繊維、混紡繊維、化繊ロープ、 【その他】フラッシュ製品くず、プラスチック容器、雑物スチロール、ビニールシート、フィルム、プラスチックタイル、セルロイド、繊維強化プラスチック（FRP）、塗料かす（固形）、接着剤かす、合成ゴムくず、塩ビ管
		0620	使用済みタイヤ
		0630	工作物の新築、改築又は除去に伴って生じた産業廃棄物であって、石綿をその重量の0.1%を超えて含有するもの。
		0701	建材の包装紙、建設現場から排出される紙くず
	紙	0801	木くず、おがくず、かんなくず、パーク紙、竹、ベニヤ、ベニヤボード類、伐採木、伐採材、伐損材
繊維くず	天然ゴム	0900	羊毛、綿、絹、麻等の天然繊維、レーヨン、アセテート混紡繊維（天然繊維が主体のもの）
		1100	天然ゴムくず
		1210	鉄くず、スクラップ（主体が鉄製の場合）、プリキくず、トタンくず、空き缶（鉄製のもの）
		1220	銅線、銅くず、アルミくず、アルミ缶
	非金属	1230	自社にて分別を行わなかったものや分別不可能なもの
ガラスくず	陶磁器くず	1310	白熱電球、窓ガラス、びん類、グラスウール
		1320	かわら、土管、陶管、タイル
		1330	石膏ボードくず
		1350	工作物の新築、改築又は除去に伴って生じた産業廃棄物であって、石綿をその重量の0.1%を超えて含有するもの。
	石綿含有産業廃棄物（非飛散性）	1510	コンクリート破片、コンクリートブロック破片
がれき類 （工作物の新築、改築又は除去に伴うもの）	コンクリート片	1520	アスファルトコンクリートの破片
		1530	鉄道用線路の砂利、骨材、石材、れんが、スレート、タイル、断熱材
		1540	工作物の新築、改築又は除去に伴って生じた産業廃棄物であって、石綿をその重量の0.1%を超えて含有するもの。
		2100	廃プラスチック類、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類のみを混合物で分別ができない廃棄物
	安定型混合廃棄物	2200	廃プラスチック類、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類以外の廃棄物を含む混合物で分別できない廃棄物
混合廃棄物	管理型混合廃棄物	3000	廃自動車、廃二輪車
		3100	プリント配線板、テレビ、エアコン、冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、パソコン、電話機、自動販売機など
		3500	鉛蓄電池（バッテリー）、乾電池（水銀を含むものを除く）
		3600	2つ以上の異なる素材が一体的に組み合わされている製品の廃棄物
	水銀使用製品産業廃棄物	2500	水銀電池、空気圧鉛電池、照明機器（蛍光灯ランプ、HIDランプ、放電ランプ）など、水銀等の使用に関する表示がある製品
水銀含有ばいじん等	水銀含有ばいじん等	2600	水銀を1kgにつき15mgを超えて含有するもの（ばいじん、燃え殻、汚泥、鉱さい） 水銀を1 Lにつき15mgを超えて含有するもの（廃酸、廃アルカリ）

2. 特別管理産業廃棄物

種 類	分類番号	具 体 例
引火性廃油	0318	揮発油類（燃えやすい軽油、ガソリン、灯油、軽油、シンナー、トルエン、キシレン、エーテルなど）
腐食性廃酸	0408	水素イオン濃度指数（pH）が2.0以下の廃液
腐食性廃アルカリ	0508	水素イオン濃度指数（pH）が12.5以上の廃液
特定有害廃棄物汚泥	0229	特定有害物質を含む汚泥
特定有害廃棄物汚油	0319	特定有害物質を含む汚油
特定有害廃棄物廃酸	0409	特定有害物質を含む酸性廃液
特定有害廃棄物廃アルカリ	0509	特定有害物質を含むアルカリ性廃液
特定有害廃棄物廃石綿等	1538	吹き付け石綿（アスベスト）、石綿含有保温材
廃PCB等	7419	廃PCB等、PCB汚染物、PCB処理物
特定有害廃棄物	7440	特定の施設において生じた廃水銀又は廃水銀化合物（水銀使用製品が産業廃棄物となったものに封入された廃水銀等を除く）、水銀若しくはその化合物が含まれている産業廃棄物、又は水銀使用製品が産業廃棄物となったものから回収した廃水銀

※腐食性、毒性、感染性、腐食性などの有害な性状を有している廃棄物は特別管理産業廃棄物として分別されます。

●この調査の調査期間は、令和6年度（令和6年4月1日～令和7年3月31日）です。この期間中の医薬品等の発生と処理、処分の状況を質問①～④までの流れに従って記入して下さい。

- この調査では、調査票が送付された事業所内で発生した廃棄物等だけが記入の対象となります。
- 廃棄物がどのように分類されているかを示すために、裏面に「**廃棄物等分類表**」があります。

調査票(その2)の記入例

- ・ガラスくずが年間1 t 発生した。
- ・〇〇産業に収集・運搬を委託した。
- ・業者に問い合わせたところ横手市内にある株式会社〇〇で処理処分しているとのことである。

●この調査の対象期間は、令和6年度（令和6年4月1日～令和7年3月31日）です。この期間中の医薬品等の発生と処理・処分の状況を質問①～⑩までの流れに従って記入して下さい。

●この調査では、調査票が送付された事業所内で発生した廃棄物等だけが記入の対象となります。

●発生した廃棄物の「名称」と「数量」の回答欄には、「焼却」、「脱水」等の処理を行う前の「名称」と「数量」をお答え下さい。

木くず、紙くず、廃プラスチック等を焼却している場合の「③年間発生量」は、焼却処理の量です。従って「④廃棄物の名称」、「②分類番号」は、焼却後の灰の量となります。なお、焼却後の灰の量が「⑤中間処理後量」となります。

汚泥の共生量は、脱水、乾燥等の中間処理を行う前の量であり、脱水機等に投入された1年間の量が「③年間発生量」となります。なお、脱水前の重質を把握していない場合は、下記の式の計算して下さい。

調査票(その2)の記入例

本紙の裏面の「産業廃棄物等分類表」を参照して下さい。

微量又は液状廃棄物を焼却し、焼却灰が1kg未満の場合は、「0(ゼロ)」を記入し、単位はkgに○を付けて下さい。

区分	①産業・業種等の区分	②分類番号	③年間発生量					単位
			百万	十万	千	百	十	
F	行							
2	1 感染症産業廃棄物	2 0 1 8	1	2	0	0	kg t	
記	2 感染症産業廃棄物	2 0 1 8		3	7	0	kg t	
	3 レントゲン定着液	0 4 0 2			4	0	kg t	
	4 レントゲン現像液	0 5 0 2			3	0	kg t	
入	5 廃プラスチック	0 6 1 0			8	0	kg t	
	6						kg t	
	7						kg t	
	8						kg t	

- ・当病院では、感染性産業廃棄物が年間1200リットル発生した。
- ・院内では処理せず、能代市に処理施設を保有する〇〇産業に委託し、焼却処理してもらった。
- ・焼却後の燃え殻は埋立処分しているとのことである。

- ・当病院では、感染性産業廃棄物が年間3700kg発生した。
- ・院内の焼却炉で焼却し、その灰は250kgであった。
- ・灰は、秋田市に管理型の処分場を保有する△△工業㈱に委託し、埋立処分してもらった。

[illegible]

ここでは、中間処理、再生利用や最終処分した先の名称を記入して下さい。委託した廃棄物が中間処理後に最終処分されている場合は、中間処理業者の名称を記入して下さい。

- ・レントゲン定着廃液が年間400kg発生し、定期的に取引に来る(株)〇×(福島県福島市)に処理を委託している。
- ・(株)〇×では、廃液から銀を回収しているようである。
- ・レントゲン現像廃液も年間300kg発生し同業者に処理を委託している。
- ・業者で中和処理後、脱水をして埋立処分をしている。

- ・当病院では、廃プラスチックが年間で80kg発生した。
- ・院内では処理せず小坂町に処理施設を保有する□▲商店に委託し、焼却処理してもらった。
- ・焼却後の燃え殻は埋立処分しているとのことである。

- 記入対象は、事業活動によって発生する産業廃棄物、有価あるいは無償で引渡している副産物です。
- 同じ種類の廃棄物でも中間処理方法や処分方法、委託処理先等が異なる場合は、質問①の欄から行て下さい。
- 処理業者へ処理・処分を委託している場合は、マニフェスト伝票等を参考にして記入してください。不明な内容を処理業者にご確認しただうえで記入して下さい。

④中間処理方法コード表	
A	焼却
B	焼水
C	天日乾燥
D	自然乾燥
E	乾燥機乾燥
F	圧搾分離
G	圧搾
H	中和
I	分級
J	圧入
K	堆肥
L	堆肥(セメント原料材)
M	堆肥(燃料)
N	焼成
O	焼成(燃料)
P	焼成(セメント原料材)
Q	焼成(燃料)
R	焼成(燃料)
S	焼成(燃料)
T	焼成(燃料)
U	焼成(燃料)
V	焼成(燃料)
W	焼成(燃料)
X	焼成(燃料)
Y	焼成(燃料)
Z	焼成(燃料)

④中間処理方法コード表	
A	焼却
B	焼水
C	天日乾燥
D	自然乾燥
E	乾燥機乾燥
F	圧搾分離
G	圧搾
H	中和
I	分級
J	圧入
K	堆肥
L	堆肥(セメント原料材)
M	堆肥(燃料)
N	焼成
O	焼成(燃料)
P	焼成(セメント原料材)
Q	焼成(燃料)
R	焼成(燃料)
S	焼成(燃料)
T	焼成(燃料)
U	焼成(燃料)
V	焼成(燃料)
W	焼成(燃料)
X	焼成(燃料)
Y	焼成(燃料)
Z	焼成(燃料)

④中間処理方法コード表	
A	焼却
B	焼水
C	天日乾燥
D	自然乾燥
E	乾燥機乾燥
F	圧搾分離
G	圧搾
H	中和
I	分級
J	圧入
K	堆肥
L	堆肥(セメント原料材)
M	堆肥(燃料)
N	焼成
O	焼成(燃料)
P	焼成(セメント原料材)
Q	焼成(燃料)
R	焼成(燃料)
S	焼成(燃料)
T	焼成(燃料)
U	焼成(燃料)
V	焼成(燃料)
W	焼成(燃料)
X	焼成(燃料)
Y	焼成(燃料)
Z	焼成(燃料)

④中間処理方法コード表	
A	焼却
B	焼水
C	天日乾燥
D	自然乾燥
E	乾燥機乾燥
F	圧搾分離
G	圧搾
H	中和
I	分級
J	圧入
K	堆肥
L	堆肥(セメント原料材)
M	堆肥(燃料)
N	焼成
O	焼成(燃料)
P	焼成(セメント原料材)
Q	焼成(燃料)
R	焼成(燃料)
S	焼成(燃料)
T	焼成(燃料)
U	焼成(燃料)
V	焼成(燃料)
W	焼成(燃料)
X	焼成(燃料)
Y	焼成(燃料)
Z	焼成(燃料)

④中間処理方法コード表	
A	焼却
B	焼水
C	天日乾燥
D	自然乾燥
E	乾燥機乾燥
F	圧搾分離
G	圧搾
H	中和
I	分級
J	圧入
K	堆肥
L	堆肥(セメント原料材)
M	堆肥(燃料)
N	焼成
O	焼成(燃料)
P	焼成(セメント原料材)
Q	焼成(燃料)
R	焼成(燃料)
S	焼成(燃料)
T	焼成(燃料)
U	焼成(燃料)
V	焼成(燃料)
W	焼成(燃料)
X	焼成(燃料)
Y	焼成(燃料)
Z	焼成(燃料)

④中間処理方法コード表	
A	焼却
B	焼水
C	天日乾燥
D	自然乾燥
E	乾燥機乾燥
F	圧搾分離
G	圧搾
H	中和
I	分級
J	圧入
K	堆肥
L	堆肥(セメント原料材)
M	堆肥(燃料)
N	焼成
O	焼成(燃料)
P	焼成(セメント原料材)
Q	焼成(燃料)
R	焼成(燃料)
S	焼成(燃料)
T	焼成(燃料)
U	焼成(燃料)
V	焼成(燃料)
W	焼成(燃料)
X	焼成(燃料)
Y	焼成(燃料)
Z	焼成(燃料)

④中間処理方法コード表	
A	焼却
B	焼水
C	天日乾燥
D	自然乾燥
E	乾燥機乾燥
F	圧搾分離
G	圧搾
H	中和
I	分級
J	圧入
K	堆肥
L	堆肥(セメント原料材)
M	堆肥(燃料)
N	焼成
O	焼成(燃料)
P	焼成(セメント原料材)
Q	焼成(燃料)
R	焼成(燃料)
S	焼成(燃料)
T	焼成(燃料)
U	焼成(燃料)
V	焼成(燃料)
W	焼成(燃料)
X	焼成(燃料)
Y	焼成(燃料)
Z	焼成(燃料)

⑩処理後の処分方法

- 1 再生利用・リサイクルしている
- 2 埋立処分している

廃棄物を委託している場合で、委託後の具体的な処理・処分を把握していない場合は、委託先へ確認して記入して下さい。また、不定期の回収業者等で、住所などの詳細が不明な場合は、わかる範囲で記入して下さい。

廃棄物を委託している場合で、委託しない場合は、委託先へ確認して記入

③処理・処分先又は再生利用先の名称	④処理・処分先又は再生利用先の所在地	⑤方法番号			⑥処理後の処分方法	⑦資源化用途
		1次処理	2次処理	3次処理		
⑦処理・処分先又は再生利用先の名称	④処理・処分先又は再生利用先の所在地	⑤方法番号	⑥処理後の処分方法	⑦資源化用途		
U 1 ○○産業	能代	A	1 ②			
S 1 △△工業構	秋田		1・2			
U 1 (株)○×	福島県 福島	N	① 2	20		
U 1 (株)○×	福島県 福島	F	① ②			
U 1 □商店	小坂	A	① ②			
			1・2			
			1・2			

⑩処理後の処分方法

- 1 再生利用・リサイクル
- 2 埋立処分している

廃棄物を委託している場合で、委託後の具体的な処理・処分を把握していない場合は、委託先へ確認して記入して下さい。また、不定期の回収業者等で、住所などの詳細が不明な場合は、わかる範囲で記入して下さい。

廃棄物を委託している場合で、委託しない場合は、委託先へ確認して記入

廃棄物等分類表(その1)

※爆発性、毒性、感染性、腐食性などの有害な性状を有している産業廃棄物は特別管理産業廃棄物として分類されます。

表1：感染性廃棄物の分類表

種 類	分類番号	具 体 例
感 染 性 廃 棄 物	2018	血液、血清、血漿、体液（精液を含む）、血液等が付着した鋭利なもの（注射針、メス、試験管、シャーレ、ガラスくず等）、血液等が付着した実験・手術用手袋等、病原微生物に感染した試験・検査等に用いられたもの（試験管、シャーレ等）、汚染物が付着した廃プラスチック類等

表2：非感染性廃棄物分類表(産業廃棄物)

種 類	分類番号	具 体 例
有 機 性 汚 泥	0211	検査室や実験室などの排水処理施設から発生する汚泥（し尿を含む浄化槽汚泥は除く）
廃 油	一般廃油	冷凍機やポンプなどの潤滑油
	動植物性油脂	入院患者の給食に使った食用油（天ぷら油等）
	溶 剤	アルコール類、ケトン、洗浄油
	油 油 で い	タンクスラッジ、オイルスラッジ、オイルトラップ汚泥、油性スカム
油 付 着 物 等		油の滲みだつエス、油紙くず、廃吸油材
廃 酸	無 機 性 の 酸 性 廃 液	ホルマリン、その他の酸性の廃液
	レントゲン写真定着廃液	レントゲン写真定着廃液
カリアリ	アルカリ性廃液	検査廃液、その他のアルカリ性の廃液
	レントゲン写真現像液	レントゲン写真現像液
廃 プ ラ ス チ ッ ク 類		合成樹脂製の器具、レントゲンフィルム、ビニールチューブ、その他の合成樹脂製のもの
金 属 く ず	ゴ ム く ず	天然ゴムの器具類、ディスプレイの手袋など
	鉄 く ず	鉄くず、スクラップ（主体が鉄製の場合）、ブリキくず、トタンくず、空き缶（鉄製のもの）
	非 鉄 く ず	銅線、銅くず、アルミくず、アルミ缶
	混 合 金 属 く ず	自社にて分別を行わなかったものや分別不可能なもの
ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	ガ ラ ス く ず	白熱電球、窓ガラス、びん類、グラスウール、ガラス食器、光学レンズ、理化学用ガラス器具、薬品ビン
	陶 磁 器 く ず	ギプス用石膏、陶磁器の器具、その他の陶磁器製のもの
紙 お む つ		紙おむつ（感染性でないと判断したもの）
混 合 廃 棄 物	安定型混合廃棄物	廃プラスチック類、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類のみを含む混合物で分別ができない廃棄物
	管理型混合廃棄物	廃プラスチック類、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類以外の廃棄物を含む混合物で分別ができない廃棄物
	廃自動車	廃自動車、廃二輪車
	廃電気機械器具	プリント配線板、テレビ、エアコン、冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、パソコン、電話機、自動販売機など
複 合 材	廃電池類	鉛蓄電池（バッテリー）、乾電池（水銀を含むものを除く）
	複 合 材	2つ以上の異なる素材が一体的に組み合わされている製品の廃棄物
水銀使用製品産業廃棄物		水銀電池、空気圧計電池、照明機器（放電ランプ、HIDランプ、蛍光灯）、医薬品等、水銀体温計等
水銀含有ばいじん等		水銀を1kgにつき15mgを超えて含有するもの（ばいじん、燃え殻、汚泥、鉱さい）

廃棄物等分類表(その2)

表3：非感染性廃棄物分類表(特別管理産業廃棄物)

種 類	分類番号	具 体 例
引 火 性 廃 油	0318	揮発油類（ガソリン、灯油、軽油、シンナー、キシレン、エーテル）
腐 食 性 廃 酸	0708	水素イオン濃度指数〔pH〕が2.0以下の廃液
腐 食 性 廃 ア ル カ リ	0508	水素イオン濃度指数〔pH〕が12.5以上の廃液
	特 定 有 害 汚 泥	特定有害物質を含む汚泥
特 定 有 害 廃 棄 物	特 定 有 害 廃 油	特定有害物質を含む廃油
	特 定 有 害 廃 酸	特定有害物質を含む酸性廃液
	特 定 有 害 廃 ア ル カ リ	特定有害物質を含むアルカリ性廃液
	特 定 有 害 ば い じ ん	特定有害物質を含むばいじん
	廃 P C B	廃PCB等、POB汚染物、POB処理物
	廃 水 銀 等	特定の施設において生じた廃水銀又は廃水銀化合物（水銀使用製品が産業廃棄物となったものに投入された廃水銀等を除く）、水銀缶くしはその化合物物が含まれている産業廃棄物、又は水銀使用製品が産業廃棄物となったものから回収した廃水銀

調査票番号

産業廃棄物等の処理等に関する意識調査票

「産業廃棄物等に関する調査票」と同様に記入し、併せてご返送ください。
なお、設問中の「産業廃棄物」とは、「産業廃棄物等に関する調査票」の「記入注意事項」の「1 全般的事項」に記載されている調査対象と同じです。具体的には、同調査票別紙の「廃棄物等分類表」を御覧ください。産業廃棄物に該当しない廃棄物は、事業系の一般廃棄物になります。
設問の1から6は「産業廃棄物」について、設問7から9は、一般廃棄物を含めた「廃棄物全般」についてお聞きしていますので、御留意ください。

設問 1 産業廃棄物の将来見通しについて

貴事業所から排出される産業廃棄物の増減について、該当する番号を1つ選び、○をつけてください。また、そのように考える理由について記入してください。

増減の見通し	見通しの理由
<input type="radio"/> 1. 増加する (10%以上)	
<input type="radio"/> 2. やや増加する (5%以上)	
<input type="radio"/> 3. ほとんど変わらない (±5%未満)	
<input type="radio"/> 4. やや減少する (5%以上)	
<input type="radio"/> 5. 減少する (10%以上)	
<input type="radio"/> 6. わからない	

設問 2 処理が困難な産業廃棄物について

貴事業所が排出する産業廃棄物のうち、処理が困難なものはありますか。該当する番号を1つ選び、○をつけてください。

- ☐ 1. 処理が困難な産業廃棄物はない
☐ 2. 処理が困難な産業廃棄物がある

上記で「2」と回答した方にお伺いします。処理が困難な主な産業廃棄物の種類、性状及び理由(下記AからEの中から選択)を記載してください。

産業廃棄物の種類・性状	処理が困難である理由

処理が困難である理由 (複数選択可)

- A. 処理費用が高い
B. 処理委託先の確保が困難である
C. 再生利用ができない
D. 分別が困難である
E. その他 (回答欄に具体的に記載)

設問 3 不適正処理防止の取り組みについて

貴事業所では、処理を委託した産業廃棄物が不適正に処理されるのを防止するため、どのような取組を行っていますか。該当する全ての番号に○をつけてください。(複数回答可)

- ☐ 1. 廃棄物処理法に基づく優良産廃処理業者に委託するようにしている
☐ 2. 処理料金が相場より安すぎる処理業者には委託しないようにしている
☐ 3. 他企業と処理業者に関する情報交換をしている
☐ 4. 処理業者に中間処理後の廃棄物の行き先を確認している
☐ 5. 処理業者の処理施設を現地確認している
☐ 6. 何もしていない
☐ 7. その他 (具体的に：)

設問 4 産業廃棄物処理業者の選定基準

産業廃棄物の処理を委託するとき、どのような基準で (何を重視して) 処理業者を選定していますか。該当する番号を3つまで選び、○をつけてください。

- ☐ 1. 受入条件 (処理許可を有する廃棄物の種類、受入可能量、分別基準等)
☐ 2. 処理料金
☐ 3. リサイクルへの取組状況
☐ 4. 取引実績
☐ 5. 系列企業であるか
☐ 6. 廃棄物処理法に基づく優良産廃処理業者の認定を受けているか
☐ 7. 電子マニフェストシステムを利用しているか
☐ 8. 業界団体に加盟しているか
☐ 9. 実際の廃棄物の処理状況
☐ 10. その他 (具体的に：)

設問 5 電子マニフェストの利用状況について

貴事業所では、「電子マニフェストシステム」を利用していますか。該当する番号を1つ選び、○をつけてください。

- ☐ 1. 利用している
☐ 2. 利用を検討している
☐ 3. 利用しない

上記で「3」と回答した方にお伺いします。システムを利用しない理由について、該当する全ての項目に○を付けてください。(複数回答可)

- ☐ A. 排出量が少ない又は取引先が少ない
☐ B. 取引先で導入されていない
☐ C. 独自システムで管理している
☐ D. 費用がかかる
☐ E. システムの操作が難しくて分からない
☐ F. 現状として問題がない
☐ G. その他 (具体的に：)

設問 6 廃プラスチックの減量化、再資源化への取組について

貴事業所では、(一般廃棄物ではなく)産業廃棄物として処分している廃プラスチック類がありますか。該当する番号を1つ選び、○をつけてください。

- () 1. 処分している廃プラスチック類がある
() 2. 処分している廃プラスチック類はない

上記で「1」を回答した方にお伺いします。貴事業所では、令和4年4月以降に産業廃棄物である廃プラスチック類の減量化、再資源化につながる取組を新たに行いましたか。次のうち該当する項目を選び○をつけてください。(複数選択可)

() A. 事業に使用するプラスチックの量自体を減らす取り組みを行った。
() B. プラスチック廃棄物の排出量を減らす取り組みを行った。
() C. 廃プラスチック類の処分方法を焼却や埋立以外の方法に替えた。
() D. 使用するプラスチックを再生プラスチックやバイオプラスチックに替えた。
() E. 取組は行っていない。
() F. その他(具体的に：)

※令和4年4月からプラスチック資源循環促進法が施行され、プラスチック製品の設計からプラスチック廃棄物の処理に至るまでの過程に関わる全ての主体(事業者・排出者・自治体)に対し、プラスチックの資源循環の取組、3R+Renewableを促進するための取り組みが求められています。

設問 7 廃棄物の減量化、再資源化への取組について

貴事業所において、廃棄物の減量化や再資源化をさらに進めるため、事業化に向けて関心を持っている取組がありますか。次のうち該当する番号を3つまで選び、○をつけてください。

- () 1. 廃プラスチック(ペットボトルを除く)の減量化、回収
() 2. ペットボトルの回収
() 3. 廃油の回収
() 4. 食品廃棄物の減量化、再資源化
() 5. その他(具体的に：)
() 6. 関心を持っている取組はない。

設問 8 循環経済(サーキュラーエコノミー)について

8-1 令和6年8月に策定された国の第5次循環型社会形成推進計画では「循環経済(サーキュラーエコノミー)」という考え方が示されましたが、この考え方について、該当する番号を1つ選び、○をつけてください。

- () 1. この調査で初めて知った(これまで聞いたことがなかった)
() 2. この調査の前に見聞したことがあった

8-2 「循環経済」の考え方は、「循環型社会」の実現に向けたこれまでの考え方とどのような違いがあるかイメージがつかめますか。該当する番号を1つ選び、○をつけてください。

- () 1. イメージがつく
() 2. イメージがつかない

※循環経済(サーキュラーエコノミー)とは、従来の3Rの取組に加え、資源投入量・消費量を抑えつつ、ストックを有効活用しながら、サービス等を通じて付加価値を生み出す経済活動であり、資源・製品の価値の最大化、資源消費の最小化、廃棄物の発生抑制等を指すものです。(環境省HPより)

設問 9 県への要望について

廃棄物の減量化、再資源化又は適正処理を進めるため、県ではどのようなことに力を入れていく必要があると思いますか。次のうち該当する番号を3つまで選び、○をつけてください。

- () 1. 排出者への定期的な監視・指導の一層の強化
() 2. 不適正処理、不法投棄に対する監視・指導の一層の強化
() 3. 処理業者に関する評価や行政処分等の情報公開
() 4. 県や市が関与する公共の廃棄物処理施設の整備促進
() 5. 排出者に対する廃棄物の排出抑制・減量化を促す取組の強化
() 6. 環境負荷の少ない製品、リサイクル認定製品の利用等に対する支援
() 7. 市町村のごみ処理の広域化・集約化の取組に対する支援の強化
() 8. 官民連携による廃棄物リサイクルの取組に対する支援の強化
() 9. 廃棄物の減量化やリサイクルの技術開発・施設整備への補助・融資制度の拡充
() 10. 排出事業者に対する適正処理・リサイクルに関する研修会等の啓発活動
() 11. 産業廃棄物についての県民の知識や理解を深めるための啓発活動
() 12. 優良な廃棄物処理業者への支援と育成
() 13. その他(具体的に：)

設問 10 温室効果ガスの削減に向けた取組について

貴事業所において、二酸化炭素やメタンなどの温室効果ガスの削減につながる取組を行っていますか。該当する番号を1つ選び、○をつけてください。

- () 1. 行っている
() 2. 行っていないが、今後行う予定である
() 3. 行っておらず、今後も行う予定はない

上記で「1」又は「2」と回答した方にお伺いします。取り組んでいる(予定している)内容を記入してください。
(例)化石資源由来のプラスチックから、バイオプラスチックへの代替を検討している。 等

以上で、アンケートは終了です。ご回答ありがとうございました。

産業廃棄物等の処理等に関する意識調査票

貴事業者の名称		記入者 (部課・氏名)	
所在地	TEL:		
業の許可範囲	1. 収集運搬業 (秋田県又は秋田市の産業廃棄物の業の許可範囲について、該当する全てに○をつけてください。)	2. 中間処理業	3. 最終処分業

設問 1 受託している産業廃棄物の今後の再資源化の見込みについて
貴事業所で処理している産業廃棄物について、今後5年以内に、再資源化の拡大が見込まれる品目がありましたら記入してください。また、そのように考える理由について記入してください。

産業廃棄物の種類 (品目)	再資源化の拡大が予想される理由
(例) 廃プラスチック	成分ごとに選別・分別したプラスチックの需要が高まっている。

設問 2 電子マニフェストの利用状況について
貴事業所では、「電子マニフェストシステム」を利用していますか。該当する番号を1つ選び、○をつけてください。
() 1. 利用している
() 2. 利用を検討している
() 3. 利用しない

上記で「3」を回答した方にお伺いします。システムを利用しない理由について、該当する全ての項目に○をつけてください。(複数回答可)

() A. 排出量が少ない又は取引先が少ない () B. 取引先で導入されていない
() C. 独自システムで管理している () D. 費用がかかる
() E. システムの操作が難しく分らない () F. 現状として問題がない
() G. その他 (具体的に:)

設問 3 優良認定制度の利用状況について
貴事業所では、「優良産業廃棄物処理業者認定制度」の認定を受けていますか。該当する番号を1つ選び、○をつけてください。
() 1. 認定を受けている
() 2. 認定を受けることを検討している
() 3. 認定を受けるつもりはない

上記で「3」を回答した方にお伺いします。認定を受けるつもりがない理由について、該当する全ての項目に○をつけてください。(複数回答可)

() A. メリットが少ない () B. 手続きが面倒 () C. 費用がかかる
() D. その他 (具体的に:)

設問 4 現在の施設の運営・操業上の課題等について
貴事業所における施設の運営・操業について、現在なんらかの課題や問題点がありますか。該当する番号を1つ選び、○をつけてください。

() 1. 課題・問題点はない
() 2. 課題・問題点がある

上記で「2」を回答した方にお伺いします。課題・問題点はどのようなものですか。該当する項目を選び○をつけてください。(複数回答可)

() A. 排出事業者の産業廃棄物の分別が徹底されていない
() B. 排出事業者のマニフェストの重要性が認識されていない
() C. 処理コストに見合う適正な料金を排出事業者から徴収できない
() D. 産業廃棄物の受入量が減少している
() E. 産業廃棄物の処理について地域住民の理解が得られない
() F. 廃棄物の処理に精通した人材の育成ができていない
() G. その他 (具体的に:)

設問 5 災害廃棄物の受け入れについて
災害により災害廃棄物が発生した際に、貴事業所において災害廃棄物の受け入れを要請された場合に問題になると予想されることについて、該当する全ての番号に○をつけてください。
(複数選択可)
() 1. 災害廃棄物処理するための設備を有していない
() 2. 災害廃棄物処理するための作業員を確保できない
() 3. 災害廃棄物処理するためのノウハウがない
() 4. 災害廃棄物処理するための廃棄物処理法の手続が負担である
() 5. その他 (具体的に:)

設問 6 廃プラスチックの再資源化について
貴事業所では、産業廃棄物である廃プラスチック類の処理を受託していますか。該当する番号を1つ選び、○をつけてください
() 1. 受託している
() 2. 受託していない

上記で「1」を回答した方にお伺いします。貴事業所で行っているプラスチック資源循環につながる取組について、該当する項目を選び、○をつけてください。(複数選択可)

() A. 焼却や埋立で処理が完結しており、再資源化を目的としていない
() B. 破砕や圧縮・梱包など、再資源化を目的とした処理を実施し、処理後に他の事業者に引き渡している
() C. 自ら再商品化までの処理を実施している
() D. その他 (具体的に:)

※再商品化とは、製品や製品の原材料として利用や売却ができる状態まで再生利用することです。
例：プラスチック製品の製造、ペレット等のプラスチック原料の製造、油化、ガス化、製鉄での高炉還元剤やコークス炉化学原料料など。

設問 7 廃棄物の減量化、再資源化への取組について

貴事業所において、廃棄物の減量化や再資源化をさらに進めるため、事業化に向けて関心を持っている品目がありますか。次の 1 から 8 の品目のうち該当するものを 3 つまで選び、○をつけてください。また、「○」をつけた方は具体的にどのような取組を検討しているのか A から D の中から該当するものを全て選択してください。

品 目	事業化に向けて関心を持 っているもの (3 つまで○をつけてください)	検討している取組 (複数回答可)
1. プラスチック (ペットボトルを除く)		
2. ペットボトル		
3. 廃油		
4. 食品廃棄物		
5. リチウムイオンバッテリー (LiB)		
6. 太陽光パネル		
7. 風力発電等の設備		
8. 海洋ごみ		

検討している取組 (複数回答可)

A. 再資源化

B. 資源の回収、保管

C. 再生事業者に引き渡すまでの前処理

D. その他 (回答欄に具体的に記載)

設問 8 循環経済 (サーキュラーエコノミー) について

8-1 令和 6 年 8 月に策定された国の第 5 次循環型社会形成推進計画では「循環経済 (サーキュラーエコノミー)」という考え方が示されましたが、この考え方について、該当する番号を 1 つ選び、○をつけてください。

() 1. この調査で初めて知った (これまで聞いたことがなかった)

() 2. この調査の前に見聞きしたことがあった

8-2 「循環経済」の考え方は、「循環型社会」の実現に向けたこれまでの考え方とどのような違いがあるかイメージがきますか。該当する番号を 1 つ選び、○をつけてください。

() 1. イメージがつく

() 2. イメージがつかない

※循環経済 (サーキュラーエコノミー) とは、従来の 3 R の取組に加え、資源投入量・消費量を抑えつつ、ストックを有効活用しながら、サービスタ等を通じて付加価値を生み出す経済活動であり、資源・製品の価値の最大化、資源消費の最小化、廃棄物の発生抑止等を指すものです。(環境省HPより)

設問 9 県への要望について

廃棄物の減量化、再資源化、適正処理を進めるため、県ではどのようなことに取り組んでいく必要があると思いますか。次のうち該当する番号を 3 つまで選び、○をつけてください。

() 1. 排出者への定期的な監視・指導の一層の強化

() 2. 不適正処理、不法投棄に対する監視・指導の一層の強化

() 3. 処理業者に関する評価や行政処分等の情報公開

() 4. 県や市が関与する公共の廃棄物処理施設の整備促進

() 5. 排出者に対する廃棄物の排出抑制・減量化を促す取組の強化

() 6. 環境負荷の少ない製品、リサイクル認定製品の利用等に対する支援

() 7. 市町村のごみ処理広域化・集約化の取組に対する支援の強化

() 8. 官民連携による廃棄物リサイクルの取組に対する支援の強化

() 9. 廃棄物の減量やリサイクルの技術開発・施設整備への補助・融資制度の拡充

() 10. 排出事業者に対する適正処理・リサイクルに関する講習会や研修会の拡充

() 11. 産業廃棄物についての県民の知識や理解を深めるための啓発活動

() 12. 優良な廃棄物処理業者への支援と育成

() 13. その他 (具体的に：)

設問 10 温室効果ガスの削減につながる取組について

貴事業所において、二酸化炭素やメタンなどの温室効果ガスの削減につながる取組を行っていますか。該当する番号を 1 つ選び、○をつけてください。

() 1. 行っている

() 2. 行っていないが、今後行う予定である

() 3. 行っておらず、今後も行う予定はない

上記で「1」又は「2」を選択した方にお伺いします。取り組んでいる (予定している) 内容を記入してください。

(例) 高効率の最新設備を導入。廃棄物由来バイオガスからの熱回収装置の設置を検討している。等

以上で、アンケートは終了です。ご回答ありがとうございました。